

平成27年度 自己点検・評価報告書

目 白 大 学

大 学 院

(1) 特筆すべき事項

<教育活動・学生指導>

- 昨年度に引き続き、平成27年度FD活動の目標として「研究科全体による論文指導体制の強化」を掲げ、年間を通じて研究科を挙げて論文指導のあり方を検討した。
- FD活動の一環として、修士論文中間発表会及び最終試験を、学生全員の出席を義務づけ、教員も全員出席を原則として実施した結果、1年生の出席がやや少なかったものの、教員はほぼ全員が出席して活発な質疑応答と意見交換をおこない、研究科全体で修士論文の指導に当たる体制を一層強化した。
- 研究科を挙げた全体指導の強化と並行して、いわゆるゼミを中心とするきめ細かな少人数・個別指導の強化も徹底したことにより、2年次・過年次生23名中21名が修士論文を提出、最終試験に合格した。2名のうち1名(社会人)は留年、1名(留学生)は退学となった。
- 研究科の広報と社会貢献の一環として、また国際交流事業に関する共同研究の場として、国際交流研究科「第1回公開講演会」を開催した。観光立国日本と訪日外国人旅行者の増加を背景に、「観光業の「いま」ーグローバル化社会における取り組みー」をテーマとして、JT B総合研究所主席研究員を講師として招聘し、約150名の参加者があった。
- 地域社会学科主催の公開シンポジウム「第8回地域フォーラム」に共催・協力し、研究科の学生にも出席を促した。

<組織マネジメント等>

- オープンキャンパスで6回、進学相談会で4回、受験生対応をおこない、その他留学生対象説明会も1回おこなった。
- 平成28年度入試は入学者(合格者)17名であり、このうち多くが中国人留学生であった。質の確保を優先し、定員20名のところ3名充足させることができなかった。
- 入試広報部の支援により学生募集のための研究科紹介チラシを制作し、関係者に配布・送付、学内にも掲示した。
- 合格した修士論文を製本・管理するとともに、すぐれたものについては要旨を目白大学ホームページ上で公開している。
- 社会のグローバル化や少子高齢化が加速し、また産学連携や生涯学習等が注目される中、多様な層の学生の確保をめざし、また学生のニーズや論文指導の現状も踏まえ、カリキュラムの改訂と修了要件の見直しを次年度以降におこなうことを確認するとともに、その基となる研究科将来構想について検討を重ねた。
- 重要な連絡や緊急の連絡のための研究科学生用メーリングリストを開設した。

(2) 今後の課題

<教育活動・学生指導>

- 研究科全体による論文指導体制の強化に今後も取り組み、論文指導担当教員のきめ細かな個別指導と中間発表・最終試験における全教員による指導をさらに徹底する。
- 修士論文最終試験で合格判定を出したものの、論文の質やレベルの点で必ずしも十分ではないものがあり、論文指導担当教員のより厳しい指導が望まれる。
- 学生・教職員・一般市民を対象とした国際交流研究科「第2回公開講演会」を開催する。国際協力等の分野における実務的専門家を講師に招聘し、国際交流事業の現状と課題について理解を深める。
- 大学院生の就職活動を支援するために、キャリアセンターとの連携や修了生・同窓生とのネットワークの構築を図る。
- 2020年開催の東京オリンピックも視野に入れながら、観光・文化・環境などの分野における地域連携や産学連携を通して大学院生が積極的に国際交流や社会貢献に取り組める機会を拡充する。

<組織マネジメント等>

- 国際交流研究科将来構想検討案に沿って、カリキュラムの改訂と修了要件の見直しを計画する。ただし国際交流研究科のカリキュラム改訂は、国際交流研究科のベースとなっている地域社会学科のカリキュラム改訂と連動しておこなう予定であり、実施年度は流動的である。
- カリキュラムの改訂としては、グローバル人材の育成や高度職業人・教養人の育成を目的として相応しい科目の新設や国際交流研究に関する学際的オムニバス講義の新設をおこなう予定である。
- 修了要件の見直しとしては、修士論文の提出をもって修了要件とする現行のコースのほかに、臨地研究報告書の提出をもって修了要件とするコースを併設する予定である。
- 国際交流研究科であるから留学生が多いことは良いとしても、比率が極端に高く、また出身国に大きな偏りがあるので、今後は多様な国々、非漢字文化圏の国々などからの留学生を確保する方策を検討する。
- 厚生労働省教育訓練支援給付金制度も活用しながら社会人学生を確保するとともに、本学の卒業生、他大学の新卒生、リタイア世代、主婦など、異文化交流や多文化共生の問題に関心を持つ多様な層からの掘り起こしを図る。
- 平成28年度末に定年退職となる2名の教員の後任人事を、専攻分野等の見直し・再検討も含めて、地域社会学科のカリキュラム改訂も視野に入れながら進めたい。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価	研究科(修士)用評価シート	組織名称 (評価单位名称)	国際交流専攻
---------------------------	---------------	------------------	--------

項目	自己評価 ※箇条書きにて記入
教育	<p>(1)特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修士論文の中間発表(H27.7.29)では諸教員から多くのコメント・アドバイスがあり、論文作成指導に極めて有効だった。最終試験(H28.2.5)では活発な質疑応答がなされた。 ・春学期に教員と学生の個別面接を行い、学生による希望票に基づいて1年次秋学期から履修する課題研究の指導教員の決定を行った。学生と教員のミスマッチを防ぐ上で有効と思われる。 ・留学生には日本あるいは日本と母国に関する比較研究をなるべく行うよう勧めている。 ・修士論文のうち優秀なものについては、要旨を本学の公式ウェブサイトで公表している。 <p>(2)今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生が他学生の発表内容に関心を持ち、中間発表や最終試験の場で質疑に加わるようにしていきたい。 ・留学生の日本語能力が向上しない憾みがある。 ・隣地研究を推奨する。
学生指導	<p>(1)特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の欠席の多い学生のフォローアップを行った。 <p>(2)今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職を希望する学生に対する助言・支援の体制を整える。 ・就職先については学位授与式時に確認しているが、その後のフォローがほとんど行われていない。 ・留学生が多いので学園生活や履修方法などについてきめ細かな指導が必要。また、アルバイトの状況もできるだけ具体的に把握できるようにする。
社会貢献	<p>(1)特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JTB総合研究所から研究員の方を招いて「第1回公開講演会」を開催した(H27.6.27)。 <p>(2)今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JICAや自治体などとの連携により、国際交流に関するプログラムを推進する。
組織マネジメント	<p>(1)特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報活動・学生募集強化のため、オープンキャンパスでの相談会や研究室での相談会を行った。 ・研究科紹介のチラシを作成・発行 <p>(2)今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際交流の名にふさわしく、多様な国々からの留学生を確保する(現在のところ、中国からの学生が大半)。 ・新宿キャンパスの学部生への説明会などを行い、進学を勧める。社会人については、厚生労働省の教育訓練給付制度の対象講座であることから実質的な学費免除措置が受けられることをアピールする。 ・留学生を含め、学生間の親睦を図る。 ・外部講師の協力を仰いで国際交流の実際に触れる機会を設ける。
その他	<p>(1)特筆すべき事項</p> <p>特になし</p> <p>(2)今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修了生の就職先などの情報を取得できるようにする。 ・修了生との交流の輪を広げる仕組みを作る。

(1) 特筆すべき事項

【教育】

- ①平成27年度に、心理学研究科現代心理学専攻と臨床心理学専攻および心理学専攻（博士後期課程）では、「教育課程と指導方針（CP）」「大学院の学位授与方針（DP）」「求める学生像（AP）」を見直し、各専攻の方向性を明確にした。
- ②研究倫理の徹底をはかるため、修士論文作成のための研究のうち、学内の倫理審査委員会で審査が必要となる研究については、現代および臨床の両専攻合同で教員が指導を行った後に審査委員会に審査を依頼した。
- ③平成27年度臨床心理士資格認定試験では平成27年3月の修了学生18名のうち11名が合格し、現役合格率は全国平均60.4%を上回る成績であった。
- ④平成27年9月に「公認心理師法」が成立し、今後は学部と連動して大学院教育体制の見直しが必要となった。

【学生指導】

- ①大学院入学者は年々多様化しており、学生指導には細心の配慮が求められることを具体的なケースを通じて教員間で再確認した。

【社会貢献】

- ①研究科主催の講演会に大学院の修了生を講師として招き、社会貢献の実際を在学生在が学ぶ機会を作った。
- ②教員は、学内の心理カウンセリングセンターが地域に向けて行う講演会の講師として、また、センターの相談員として積極的に活動した。

【その他】

- ①両専攻が協同で受験用チラシを作成し、積極的に広報活動を行った。首都圏の心理学部・学科等を有する各大学への郵送、予備校等への宣伝を行い、昨年度の落ち込みを回復し、両専攻ともほぼ例年程度の学生を確保した。

(2) 今後の課題

【教育】

- ①心理学分野で初めて制定された国家資格「公認心理師」が大学・大学院カリキュラムに与える影響は大きい。平成28年12月遅くても平成29年1月に管轄官庁の文科省と厚生労働省から養成カリキュラムが発表されるが、その前に情報を収集しある程度の準備と対策を講じておく必要がある。
- ②「臨床心理士」制度はすぐに崩壊するとは思われないが、「公認心理師」との共存を求めて、2資格を受験できるようにするのか、心理学研究科として大きな方向転換が求められてくるだろう。
- ③学内からの大学院進学者を増やすために、いわゆる「内部推薦制度」などを検討し、大学院進学希望者のレベルアップを図る。
- ④博士課程担当の補充および世代交代をする時期に来ているので、積極的に進める。

【学生指導】

- ①学部生に比して大学院生への就職指導は学生の自主性に任せがちになりやすいが、社会人としてのマナー教育も含めて、就職・進路指導に力を入れていく。
- ②学生の適性や心身の状態を十分に考慮したうえで学生指導をおこない、留年や退学学生が増えないようにする。

【社会貢献】

- ①個々の学生や教員の個人的活動に依存しすぎていた面があり、今後は研究科全体としての社会貢献を探る必要がある。

【組織マネジメント】

- ①退職教員の補充や大学院博士課程担当教員の人選などを平成28年度に行うことになる。
- ②新学部改革にあわせて、大学院の組織再編も避けられない状況にある。

【その他】

- ①修士課程の両専攻とも社会人入学者が必ずしも多くないため、学生から日中の授業実施を希望する声が多く寄せられている。現在の昼夜開講制を継続することの是非について検討の必要がある。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価	研究科(修士)用評価シート	組織名称 (評価单位名称)	心理学研究科 現代心理学専攻
---------------------------	---------------	------------------	----------------

項目	自己評価 ※箇条書きにて記入
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①平成27年度、心理学研究科現代心理学専攻では臨床心理学専攻および心理学専攻（博士後期課程）と共に「教育課程と指導方針CP」「大学院の学位授与方針DP」「求める学生像AP」についての見直しを行い、専攻の方向性を再検討した。</p> <p>②現代心理学専攻の入学者に学部内部者を増やして行きたいという目標を平成27年度は立てていたが、11名の入学者のうち5名が学部からの入学者であった。内部からの入学者数としては半数であることから、その目標は達成したといえよう。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①平成27年9月に「公認心理師」法案が国会で成立したことを受けて、心理カウンセリング学科と共に各専攻のあり方を考える必要性が出てきている。②次年度も内部からの進学希望者を増やすために、学部学生向けの説明会や掲示を積極的に行っていく必要がある。</p> <p>③現代心理学専攻のこれまでの特徴として、社会人学生と学部からの学生がバランスよく入学してきていることであった。しかし、昨年度は社会人学生の入学希望者が少なかったため、今後、どのように社会人に対して目白大学大学院現代心理学専攻をアピールしていくかが課題である。③入学希望者が少なくなってきたこと、募集方法の見直しを含めて検討する必要があると思われる。</p>
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①平成27年度に修士号を獲得して卒業した学生に対し、各教員熱心に指導を行った結果、質の高い修士論文を提出させることができた点は大いに評価できる。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①この2年間、本専攻には学部から直接進学してきた学生が増えてきている。こうした学生は、学部時代に就職活動を経験してきていないことが多く、大学院進学後の1年目には就職活動をする必要があるにもかかわらず、活動をしている院生は少ない現状にある。大学院での勉強と同時に進路指導も行うことが今後の課題である。</p>
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①平成27年度の現代心理学専攻FDとして社会で活躍する卒業生（例：雑誌記者として活躍する女性・ビジネスを立ち上げ活躍する男性）を招き話をしてもらった。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①卒業した学生たちがどのような仕事をしており、社会的貢献をしているかを把握することを今後の課題としていきたい。</p> <p>②現代心理学専攻が主催するシンポジウムを一般の方々に向けて企画するなどして、社会的貢献ができるように今後、考える必要がある。</p>
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①平成28年より、長年、本専攻のために尽力された教授 原裕視専攻主任に替わり、小野寺敦子が専攻主任を務めることになった。</p> <p>②卒業生をゲストスピーカーに招いてのFDなどを実施し、院生および卒業生から高評価をいただいた。教員にとっても卒業生の活躍を知るよい機会になった。</p> <p>(2) 今後の課題 ①平成26年度末で退官された内山絢子教授にかわって齋藤梓専任講師が授業を担当することになった。本専攻内では齋藤講師の専門分野（臨床心理学・被害者支援）に関心をもつ院生もいることから、齋藤先生を研究補佐としてゼミを担当していただくことを検討する必要がある。②渋谷昌三教授が次年度をもって退官されるため、渋谷先生の専門分野である社会心理学の担当科目などをどうするか、ゼミ指導をどのように今後していくかを考えて行くことが今後の課題である。③次年度も卒業生を招いての学科専攻のFDを実施し教員の意識を高める機会を作っていきたい。</p>
その他	

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価	研究科(修士)用評価シート	組織名称 (評価単位名称)	臨床心理学専攻
---------------------------	---------------	------------------	---------

項目	自己評価 ※箇条書きにて記入
----	----------------

教育	<p>(1)特筆すべき事項</p> <p>①平成27年度臨床心理士資格認定試験において、平成27年3月に修了した学生18名のうち11名が合格し、現役合格率は68.8%と全国平均60.4%を上回る成績であった。</p> <p>②昨年度に引き続き修士論文最終試験を口頭発表形式に変更した。各学生の研究発表を丁寧に審査することができ、今後この方式での実施を継続することとした。</p> <p>③臨床心理士試験合格体験講演会を平成28年3月16日に開催し、2名の修了生の講演を専攻のほぼ全員の学生が聴講した。</p> <p>④修士論文作成のための研究のうち、倫理審査が必要な研究について、現代心理学専攻と合同で指導を行った。</p> <p>(2)今後の課題</p> <p>①臨床心理士資格認定試験合格率のさらなる向上を図る。</p> <p>②公認心理師法の成立に伴い、大学院教育、臨床心理士資格等の位置づけをどのようにとらえなおしていくかという点について、関係省庁、関係部局等からの情報や動向を十分に把握しながら、本専攻の今後の教育方針を検討していく。</p>
----	--

学生指導	<p>(2)今後の課題</p> <p>①内部実習・外部実習の開始に際し、実習生としてまた援助職としての姿勢・マナーの指導を十分に行う。</p> <p>②不適応状態にある学生の早期発見、対処に努め、教員間で情報を共有して指導に当たる。</p>
------	--

社会貢献	<p>(1)特筆すべき事項</p> <p>心理カウンセリングセンターと協力の上、個々の教員による以下の活動を行った。</p> <p>①心理・教育・福祉・医療等に携わる専門家・大学院生を対象とした心理カウンセリングセンター主催の下記公開セミナーを開催した。「臨床中医心理学入門」(奈良雅之現代心理学専攻教授)、「メンタルヘルスの基本と職場のストレスマネジメント」(渡邊智之カウンセリングセンター助教)、「心理臨床における関係づくりを学ぶ」(青柳宏亮助教)、「日常に生かす精神分析」(堀川聡司カウンセリングセンター助教)、「支援につなげるWISC-IVの実施と結果の見方」(浅野朗子心理カウンセリングセンター助教)。</p> <p>②和光市・和光市教育委員会後援により、一般地域住民を対象とした心理カウンセリングセンター分室主催の公開講座を開催した(「知ってほしい認知症の基本」講師：現代心理学専攻河野理恵准教授 司会：小池真規子教授)。</p> <p>(2)今後の課題</p> <p>①現代心理学専攻とともに心理学研究科としての社会貢献のあり方を検討する。</p>
------	---

組織マネジメント	
----------	--

その他	<p>(1)特筆すべき事項</p> <p>①昨年度は受験者数および入学者数が激減したが、本年度はほぼ例年程度の状態に持ち直した。</p> <p>②現代心理学専攻と協同で広報用チラシを作成し、首都圏の心理学部・学科等を有する各大学に郵送し、予備校等に持参するなどして学生募集活動に努めた。</p> <p>③河合塾臨床心理指定大学院フェアにおける個別相談会に出席した。</p> <p>④河合塾KALSにおける「臨床心理士指定校大学院セミナー」において准教授が講演を行った。</p> <p>(2)今後の課題</p> <p>①受験者、入学者増に向けての活動。具体的には、外部における広報活動、オープンキャンパスにおける全体説明会・個別相談の回数増、内部進学者を増やすための入試方法の検討を行う。引き続き、学生募集に努めるとともに、入試広報と協力して情勢の分析と対応を行っていく必要がある。</p> <p>②臨床心理士資格認定試験に不合格となった学生についてのその後の状況を継続して把握する。</p> <p>③学生から日中の授業実施を希望する声が多く寄せられているため、現在の昼夜開講制を継続することについて検討の必要がある。</p>
-----	--

自己評価 ※箇条書きにて記入

(1) 特筆すべき事項

平成27年度は1名に博士号を授与した。
篠田直子「大学生のADHD特性の特徴と進路決定への影響に関する心理学的研究」

(2) 今後の課題

- ①学会雑誌への積極的投稿
- ②博士課程在籍学生をTAとして採用し、学生の経済的支援だけでなく、教育指導の経験となるようにする。
- ③博士課程在籍中に博士論文を完成させる指導方針を堅持しているが、在籍中に予備審査に合格した学生の場合は、単位取得満期退学後の2年に限り博士論文の提出を認める方向で「博士学位論文審査及び最終試験に関する取扱い内規」を調整中である。
- ④退職教員の補充および博士課程担当教員の世代交代を図る

(1) 特筆すべき事項

長らく空席であった、経営戦略論、経営組織論担当の大学院教員を採用することができた。

(2) 今後の課題

会計学における税理士免除を担当出来る教員を確保することと、経営学専攻の日本人学生の確保が課題である。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価		研究科(修士)用評価シート	組織名称 (評価単位名称)	経営学専攻(修士課程)
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入			
教育	<p>(1) 特筆すべき事項 ①経営学フォーラムの時間において、論文の作成方法、プレゼンテーションの方法等について講義を行い成果を得た。</p> <p>(2) 今後の課題 ①新入生の学生の中にも基礎学力の不足が見られることから、各科目において、入門教育を実施することを検討することとした。</p>			
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項 ①経営学フォーラムの時間に、留学生のための就職説明会を行った。外部講師により法律手続き面、求人票の見方および応募する場合の問題点について具体的な情報が説明され充実したものとなった。</p> <p>②教員一人当たりの学生数の偏在が改善されたことと、入学試験における試験を厳密にしたことより、各学生にたいしてより丁寧な研究指導が行えるようになった。</p>			
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項 ①研究成果を国内学会、国際会議等において、外部発信している。</p> <p>(2) 今後の課題 社会人学生に魅力あるカリキュラム改定を検討すべきである。</p>			
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項 ①若手教員に対する加重的な負担を軽減することができた。 ②研究科委員会を毎月定期的に開催することにしたので、顕在・内在する問題点に迅速に対応することができた。</p> <p>(2) 今後の課題 会計学関連科目の選任教員が不足していることから、教員の公募による補充が急務である。</p>			
その他	<p>(2) 今後の課題 日本人学生の在籍者数が少ないことと、留学生においても、合格水準に達する受験者が少ないことから、継続的に受験者の増加とその水準の向上を図るために、欠員状況分野の教員の補充を行うとともに、少人数教育による大学院教育の充実していることを外部へ情報発信を行っていくが必要である。</p>			

自己評価 ※箇条書きにて記入

(1) 特筆すべき事項

指導教員の指導によって、博士課程の学生が、海外の査読付き雑誌に論文を掲載することができた。

(2) 今後の課題

大学院教員の論文執筆が少ないので、研究活動をより活発にする必要がある。

(1) 特筆すべき事項**【生涯福祉研究科の課題と展望を検討する取り組み】**

① ワーキンググループによる検討

生涯福祉研究科の入学生の増加を目指して、昨年度に立ち上げた研究科の課題を討議するワーキンググループを今年度も継続した。特に、他大学大学院の状況を各教員が調べて報告、実習先である福祉施設に職員リカレント意識と派遣条件などのアンケート調査、を実施した。アンケート調査では、大学院の認知、リカレントの意識、施設が職員を送り出す条件、現場が必要としている学びについて調べることができた。

【生涯福祉研究科の周知を図る取り組み】

① 生涯福祉研究科主催の公開シンポジウムと公開講座

大学と新宿区の包括連携を視野に入れて生涯福祉研究科主催の第3回公開シンポジウム「認知症当事者の現状と地域支援のあり方～新宿区と目白大学の連携を考える～」をテーマに3月12日(土)に新宿区高齢者福祉課長や地域の施設運営者、目白大学教員の4名のパネリストの報告・討論を行った。シンポジウムには、新宿区、新宿区社会福祉協議会の後援を得た。8月1日に子ども学科主催の公開講座「コモンセンス・ペアレンティングってなんだろう? - 子育て支援・育児に役立つコミュニケーション術 -」を協賛として第2回公開講義とした。第3回公開講義は11月18日に「発達障害学生の理解と支援」をテーマに講義をうけた。

② 人間福祉学科および子ども学科の卒業生に対する大学院紹介のDMの配布

昨年度と同様に、入試広報グループの協力を得て人間福祉学科はニュースレター、子ども学科はリーフレットで各学科の卒業生に対して生涯福祉研究科の紹介及び入学のお誘いを配布した。

③ 研究会・フォーラム・研修会などへの協賛

学内で開催された「子ども学科主催の公開講座」、「学内NPO法人障害者就業生活支援開発支援センターGreen Work21研修会」、リハビリテーション学研究科研修会に協賛して生涯福祉研究科名を明記した。

【研究指導の強化】

① 倫理審査の仕組みと申請に関わる講義

修士論文の作成予定の大学院生に倫理審査委員の教員が、倫理審査の仕組みと申請方法を丁寧に講義し、院生自らが申請できるようにした。

② 院生との懇談会の実施

大学院生の学習環境を整備する一環として、デザイン発表や中間発表終了後に院生と教員が懇談して、学習及び生活上に不都合がないか意見交換をおこない、その結果を大学教務部大学院担当に伝えて改善を依頼した。

③ 修了生の進路(博士課程への進学)

これまで、国内の他大学大学院博士課程へ進学した修了生はいたが、昨年度終了した中国からの留学生が中国の拠点校である上海華東師範大学の博士課程に合格した。今後、大学間の日中交流につながることを期待している。

【他研究科との連携】

① リハビリテーション学研究科の授業の聴講

昨年と同様にリハビリテーション学研究科の配慮で、立教大教授の「修正版グランデッドセオリー」の講義を院生、教員が受講できた。

(2) 今後の課題**【応募者・入学者数の確保】**

① 生涯福祉研究科の魅力を周知する活動

生涯福祉研究科の魅力を周知する一環として、公開シンポジウムの他に今年度も公開講演会を2回実施する。これらの活動を学生、卒業生、院生、他大学、実習施設、地域の社会福祉施設などへチラシとして配布する。また、目白大学で開催される福祉関連の研修会に協賛するほか、今年度は総合リハビリテーション研究大会があるため、全国の関係者への周知につながることを期待している。

② 学科の卒業生へリカレントの周知

学部学生に対して早い時期から大学院があることを周知する、既卒者へは学科のニュースレターや同窓会報などを通して働きながらリカレントすることの意義を伝えて学びを促す、などを定期的に行い、入学者の確保につなげる。

③ 福祉施設と連携して社会人入学者の確保を検討する

福祉施設に対するアンケート調査をふまえて、福祉施設運営者にヒアリングをおこない、大学と福祉施設で連携して福祉施設から職員を派遣しやすい、社会人が入学しやすい仕組みを検討する。

④ 資格のキャリアアップに応える仕組みを検討する

昨年度、申請できなかった認定社会福祉士認証・認定機構へ認定社会福祉士の資格取得に関わる大学院の科目の認証を複数申請する。また、認定介護福祉士についてもその資格に関わる科目を確認して申請し、院生確保と専門職養成の一端を担えるようにする。

【大学院教育】

① 図書購入費の活用

教員の図書購入が行われておらず、図書費が減額されたため、図書館の協力を得ながら図書の購入を推進する。

② 大学院教育科目の見直し

社会状況をふまえ、社会が求めている大学院教育や生涯福祉研究科の立ち位置を確認し、社会人が求めるカリキュラム構成、修士論文の在り方、福祉施設と連携した実践的研究など、他大学の情報収集もふまえてワーキンググループで検討し、研究科全体で方向を定める。

③ 倫理審査のスケジュールの改善

修士論文の指導が倫理審査のスケジュールに縛られること、申請から審査結果が出るまで2ヵ月を要すること、倫理審査担当教員は各学科の教員であることなどの課題があり、修士論文の作成と指導が柔軟に対応するために、心理学研究科と連携して大学に働きかけていく。

④ 他の研究科との情報や研究の交流と連携および近隣大学や外国の大学との交流

生涯福祉研究科と関連する心理学研究科、リハビリテーション学研究科などと時間割、授業の相互履修、情報の共有などで連携するとともに、近隣大学の教員や院生と授業・研究会で相互交流できる企画を設定し、多様な視点から福祉の理念や実践を考える機会にする。また、留学生も在籍するなど福祉に関わる国際交流や生涯福祉研究科の教授の交流がある韓国江南大学など社会福祉教員と交流を発展させたい。

【研究科組織と運営】

① 教員人事

教員人事は、専任教員の全員が学部学科の人事が優先され、大学院の授業科目や研究指導に人事もそれに従わざるを得ない難しさがある。したがって、科目によっては大学院専任の特任教員を採用するなど、より質の高い教育を可能とする仕組みが必要であろう。また、保育学で退職予定教員の後任も含めて、保育学の研究指導、科目講義の教員が少なくなっており、補充が必要である。

② 兼任講師の選任

兼任講師の年齢、任期のため、新たに保育ニーズ特論、子育て支援特論、現代保育特論、生命倫理特論の担当を決める必要がある。

③ 役割の分掌

大学院教育の一層の充実に向けて、研究科における教員の役割と分掌、責任を明確化すること、大学院事務と情報を共有することが重要である。なかでも、教員の大学院に対する意識と指導・運営に積極的に関わる姿勢が課題である。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価		研究科(修士)用評価シート	組織名称 (評価单位名称)	生涯福祉専攻
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入			
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>① 院生の研究の進捗を評価するとともに、支援する研究デザイン発表Ⅰ、Ⅱと中間発表を行った。その場では、指導教官以外の教官や学生からの討論が行われた。</p> <p>② 研究生、院生、特に留学生に対して、学部授業の聴講を可能にした。専門知識の補完や、語学能力の促進に努めた。</p> <p>③ 平成27年度に修了した院生3名のうち、2名が他大学の博士課程への進学を希望した。中国からの留学生は上海華東師範大学の博士課程に合格した。</p> <p>④ 社会福祉施設の職員のニーズに応えるため、福祉経営特論、生活支援特論の授業を開講した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>① 留学生の語学力・専門領域の知識の高さなどを明確にしてゆくような、入試資格およびその運用の工夫を検討する。</p> <p>② 社会人院生の研究活動の時間的配慮をさらに進めるべく、指導時間などを弾力的に運用する。</p> <p>③ 「認定社会福祉士」などの新たな資格取得が可能なように、カリキュラムを整備し、申請を進める。</p>			
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>① 少人数講義によるきめ細やかな指導と議論を用いた学びを行えた。</p> <p>② 院生自身の臨床現場での活動による学びを、講義と研究で生かすべく教育した。</p> <p>③ 留学生を含む院生間での議論を賦活し、他文化的でグローバルな観点をもつことを励ました。</p> <p>④ 定期的に院生と教員間で意見交換会を行い、院生の学生生活充実したものになるよう配慮した。</p> <p>⑤ リハビリテーション学研究科の授業、立教大教授「修正版グランデッドセオリー」の講義を聴講できるように依頼した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>① 学会や研修、公開シンポジウムと公開講義への参加、韓国の大学への研修などを積極的に勧める。</p> <p>② 修士課程終了後の就職先、大学院進学について情報を提供する。</p> <p>③ 大学院生の同窓会、懇談会を創設する。</p> <p>④ 院生と教員の意見交換会を定期的に開催し、院生の要望に応えるよう努める。</p>			
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>① 年1回の公開シンポジウムと年2回の公開講義により、地域とくに新宿区の福祉機関への啓発活動と相互の情報の共有に努めた。</p> <p>② 子ども学科の公開シンポジウムに協賛し、地域の保育者などへの啓発を行った。</p> <p>③ NPO障害者就業生活支援センターの学内運営を昨年度に引き続き支援し、研修に協賛した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>① 定期的な公開シンポジウムと公開講義を持続させ、地域貢献と院生・教員の学びの場になるようにしていく。</p> <p>② 上記NPO障害者就業生活支援センターの学内運営を支援し、自身の学びにつなげる。</p>			
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>① 月1回の定期的研究科会議を開催し、教員間の共通認識が進んだ。</p> <p>② それぞれの担当が役割分掌をふまえて、その役割を適切に果たした。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>① 福祉学の教員と保育学の教員とが、統合された学問体系（生涯福祉）の理念をもち、よりまとまった協働ができるように意識と情報の共有を進めること。</p> <p>② リハビリテーション学研究科、心理学研究科など他研究科との連携をさらに進める。</p> <p>③ 保育学の教員と兼任講師について研究、授業に支障がでないよう人事をはかる。</p>			
その他	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>① 各教員が他大学大学院の実情を調べ、それを報告し合うことで情報の共有化をはかり、今後の生涯福祉研究科の方向を検討する資料にした。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>① 入学希望者の増加を目指して、社会人のリカレントに応えられる仕組みを検討するとともに、本研究科の強みを概念化する。</p> <p>② 学部・学科の再編成の上に、どのような研究科が望まれるかを検討する。</p> <p>③ ①②に基づいて、入試資格の見直し、カリキュラムの改善などに取り組む。</p>			

(1) 特筆すべき事項

教育

- ・英語教育関連の講演を行い、有益な示唆を受けた(英語・英語教育)
- ・他学から研究助成を受け、複数の院生が研究会・ラウンドテーブルに参加した。(日本語・日本語教育)
- ・1専攻から2つの学位を授与できる規定が維持・運用されている。(中国・韓国言語文化)

学生指導

- ・英語・英語教育：留学生が、経済的問題、不自由な日本語、研究の進捗などに苦勞し、精神的に追い詰められる例が多い。修士論文指導教員・専攻教員の連携で、学生を支えた。
- ・日本語・日本語教育：(a) M2が修士論文の指導を十分に受けることができるように、春学期はM1とM2の合同ゼミの形式を取り、修士論文の進捗状況の発表・構想の立て直し・研究方法論の検討を繰り返した。(b) 上海：華東師範大学日本語学科からの依頼があり、修了生を当該大学の日本語講師として紹介した。その結果、就職に至った。
- ・中国・韓国言語文化：韓国(慶熙大学校大学院)への交換留学生1名を本専攻から派遣することができた。

社会貢献

- ・英語・英語教育：専攻教員が書著、国内外の雑誌論文・学会発表において研究成果を発表している。また、専攻教員によりマスメディアでの文学作品解説が行われている。
- ・日本語・日本語教育：市民活動の団体から指導を依頼され、月1回公民館にて「古典の会」を主宰。また、朝日新聞から年中行事コラム(民俗)について相談と指導を行っている。
- ・中国・韓国言語文化：国内外における各種「韓国語スピーチコンテスト」で審査員を務め、また、各種「韓国語検定」の業務をこなしている。

組織マネジメント

- ・英語・英語教育専攻専攻：入学定員の充足ができていないため、閉講となる授業が見られる。
- ・中国・韓国言語文化：有期雇用教員の期限切れに伴う採用人事があり、修士論文指導補助教員の補充がなされた。また、本専攻の構成員の昇格人事があった。
- ・中国・韓国言語文化：大学院資格審査委員会において、修士論文指導補助教員の資格審査が行われ、承認された。
- ・研究科：今年度入試問題は早期に検討され、作成された。

(2) 今後の課題

教育

- ・学生の日本語運用力に不安がある場合が多く、指導体制を盤石にする必要がある。(英語・英語教育)
- ・他大学院との連携を積極的に模索する必要がある。
- ・中期計画では、中国言語文化関連分野と韓国言語文化関連分野とがそれぞれ独立することが求められている。(中国・韓国言語文化)
- ・中期計画では、「東アジア」の視点を拡大する(中国・韓国言語文化)等、「学際カリキュラム」を構成することが求められている。
- ・中期計画では、博士課程の設置に向けて努力を継続することがうたわれている。

学生指導

- ・英語・英語教育：留学生の日本語の問題に関しては、受講生の希望に応じて英語で授業を行うことを考えても良い。
- ・日本語・日本語教育：東南アジアの留学生や日本人の社会人の院生のニーズを考慮しつつ、カリキュラムの改善を行っていきたい。

社会貢献

- ・修士論文指導の基盤として、教員のより一層活発な研究活動が望まれる。”

組織マネジメント

- ・中国・韓国言語文化：(a) 中期計画により、中国言語文化関連分野と韓国言語文化関連分野との分離が求められている。(b) 中期計画により、大学院博士課程の設置に向けた努力の継続が要請されている。(c) 中期計画により、「4+1」といわれる学部と大学院との五年一貫した修士課程の設置が計画されている。(d) 博士課程に進学する修了生があるので、これを本学で受け入れたい。(b) 大学院において交換留学制度を定着させるには、博士課程の設置が望まれる。
- (b) 入学定員確保(英語・英語教育)へ向けて研究科全体の具体的な方策を打ち出す必要がある。
- ・学部に連動して、大学院においても人事の在り方が検討されることになる。
- ・大学院入試業務の点検が必要になる。
- ・国立大学等の上位校でも、大学院受験をWeb上の情報から決心する場合が少なくないので、院生(修了生)、教員の研究成果をWeb上で積極的に広報することを計画中である。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価		研究科(修士)用評価シート	組織名称 (評価単位名称)	英語・英語教育専攻
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入			
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>① 4年間の在学期間を経た外国語学部卒業生、また小学校で英語教育アドバイザーを務める社会人学生が現場での経験と試みを修士論文にまとめ、修了した。</p> <p>② 6月の外国語教育研究会では、英語教育に関する講演があり、得るところが多かった。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>① 大学院生は修了後の進路に大きな不安を抱えているのが通例である。教員の活発な研究態度が学生に勇気を与えられるので、教員のより活発な研究活動が望まれる。</p>			
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>留学生が、経済的問題、不自由な日本語、研究の進捗などに苦勞し、精神的に追い詰められる例が多い。修士論文指導教員・専攻教員の連携で、学生を支えた。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>幸い、英語・英語教育専攻は学生数に対して教員が多いので、きめ細やかな指導が可能である。日本語の問題に関しては、受講生の希望に応じて英語で授業を行うことを考えても良い。</p>			
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>① 専攻教員が大学教育の現状と将来を詳細に論じた著書が出版される予定である。</p> <p>② 専攻教員が分担執筆した英語教育関連図書が出版予定である。</p> <p>③ 専攻教員により国内のみならず海外の学術誌に論文が発表されている。</p> <p>④ 専攻教員により国内のみならず海外での学会発表が行われている。</p> <p>⑤ 専攻教員によりマスメディアでの文学作品解説が行われている。</p> <p>⑥ 専攻教員が他学での大学院FDに招かれ、講演を行った。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>修士論文指導の基盤として、教員のより一層活発な研究活動が望まれる。</p>			
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>入学定員の充足ができていないため、閉講となる授業が見られる。入学定員確保へ向けて研究科全体の具体的な方策を打ち出す必要がある。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>定員を大きく下回った。定員の充足に向け、専攻の構成員全員が協力して入試広報活動を行う必要がある。また、ここ数年、入学者数は低迷を極めているため、中国・韓国言語文化専攻の専攻分離とあわせ、定員5名への変更を検討中である。</p>			
その他	<p>(2) 今後の課題</p> <p>国立大学等の上位校でも、大学院受験をWeb上の情報から決心する場合が少なくないので、院生（修了生）、教員の研究成果をWeb上で積極的に広報することを計画中である。</p>			

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価		研究科(修士)用評価シート	組織名称 (評価単位名称)	日本語・日本語教育学科専攻
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入			
教育	<p>(1)特筆すべき事項 ①福井大学大学院が主催する「実践し省察するコミュニティ 実践研究福井ラウンドテーブル」から研究助成を受け、目白大学大学院生を毎年3～4名ずつ参加させている。当該プロジェクトに参加することによって、院生は実践から学ぶ姿勢や協働で学び合うことの意味を理解している。 ②大学院生が修士論文を提出した後、日本語教育学会春季大会に応募できるように書き方などの指導を行った。 ③博士課程を希望する院生のために、他大学の博士課程の選考基準、入試対策などの相談にのった。</p> <p>(2)今後の課題 東京都内および近郊の日本語・日本語教育専攻を持つ大学院との連携を積極的に行っていききたい。 来年度は、他大学を交えた大学院生の合同ゼミなどを開催していききたい。</p>			
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「協働型の教師研修・教員養成」『日本学研究叢書 日語教学の研究 第9巻』, pp. 555-575, 外語教学与研究出版社：北京, 2016 ・ 科研費基盤C採択課題「成人学習論に基づく「アジアの日本語教師研修システム」の構築」(課題番号15K02649) ・「成人学習論に基づく日本語教師研修の可能性ーラウンドテーブルの運営側の学びー」『日語研究と日本学』第8号, 印刷中. ・「An Alternative Constructionist Approach to Intercultural Communication:A Discussion from the Perspective of Ba.」『目白大学人文学研究』第12, 2016 ・「大国朱伝承の一考察」『目白大学人文学研究』第12号, 2016 ・「成人学習論に基づくラウンドテーブル型教師研修における運営者の学び」日本語教育学会春季大会研究発表, 武蔵野大学, 2016. 5 ・「教師の成長プロセスを支えるラウンドテーブル型教師研修におけるファシリテーターの学び」日本語教育学会発表, 沖縄国際大学, 2016, 10 ・ 科研費を内包する「学びを培う教師コミュニティ研究会」を立ち上げ、国内2回、海外1回のラウンドテーブル型教師研修を実施した。 			
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民活動の団体から指導を依頼され、月1回公民館にて「古典の会」を主宰。 ・ 朝日新聞から年中行事コラム(民俗)について相談と指導を行っている。 <p>(2) 今後の課題 地域に根ざした日本語教育の専門家の養成や教師研修を展開していききたい。</p>			
組織マネジメント				
その他				

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	研究科(修士)用評価シート	組織名称 (評価単位名称)	中国・韓国言語文化専攻
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入		
教育	<p>(1) 特筆すべき事項： ①中国言語文化関連分野と韓国言語文化関連分野とが、それぞれ修士の学位を授与できるようになっており、これが維持されている。 ②中国・韓国それぞれにとどまらず、「東アジア」全体を視野にする広範囲の学習が可能となっていて、科目が設置されている。 ③今年度は入学定員10名を充足し11名が入学した。</p> <p>(2) 今後の課題： ①中期計画では、中国言語文化関連分野と韓国言語文化関連分野とがそれぞれ独立することが求められている。 ②中期計画では、「東アジア」の視点を拡大し、「学際カリキュラム」を構成することが求められている。 ③中期計画では、博士課程の設置に向けて努力を継続することがうたわれている。</p>		
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項： ①韓国(慶熙大学校大学院)への交換留学生1名を本専攻から派遣することができた。 ②現地での研修・研究を推進する「臨地研究」の科目が設置されていて、履修者が継続している。 ③韓国言語文化関連から3名の修士(韓国言語文化)の学位取得者があった。 ④中国言語文化関連からは今年度の修士の学位取得者はなかった。</p> <p>(2) 今後の課題： ①博士課程に進学する修了生があるので、これを本学で受け入れたい。 ②学位授与に価する学生を着実に育成したい。 ③大学院において交換留学制度を定着させるには、博士課程の設置が望まれる。</p>		
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項： ①中国言語文化関連分野、韓国言語文化関連分野の教員はともに、国内外における各種講演会活動で社会貢献をしている。 ②中国言語文化関連分野、韓国言語文化関連分野の教員はともに、国内外における各種学会活動で役員をこなし社会貢献をしている。 ③韓国言語文化関連分野の教員は国内外における各種「韓国語スピーチコンテスト」で審査員を務め、また、各種「韓国語検定」の業務をこなし、社会貢献をしている。 ④韓国言語文化関連分野の教員は、教職免許更新の講師を務め、社会貢献をしている。</p> <p>(2) 今後の課題： ①国内外における講演活動、社会活動が滞りなくできるように、業務の効率化が求められる。 ②学会活動が滞りなくできるように、業務の効率化が求められる。</p>		
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項： ①有期雇用教員の期限切れに伴う採用人事があり、修士論文指導補助教員の補充がなされた。 ②本専攻の構成員の昇格人事があった。</p> <p>(2) 今後の課題： ①中期計画により、中国言語文化関連分野と韓国言語文化関連分野との分離が求められている。 ②中期計画により、大学院博士課程の設置に向けた努力の継続が要請されている。 ③中期計画により、「学際カリキュラム」の構成が要請されている。 ④中期計画により、「4+1」といわれる学部と大学院との五年一貫した修士課程の設置が計画されている。</p>		
その他	<p>(1) 特筆すべき事項： ①大学院資格審査委員会において、修士論文指導補助教員の資格審査が行われ、承認された。 ②今年度入試問題は早期に検討され、作成された。</p> <p>(2) 今後の課題： ①学部に関連して、大学院においても人事の在り方が検討されることになる。 ②大学院入試業務の点検が必要になる。</p>		

(1) 特筆すべき事項

【教育課程】

- ・カリキュラム委員会でカリキュラムを検討し、教科目の配置とコースワークの充実に向けた検討を行った。平成28年度より新たなカリキュラムで運営できるよう諸手続きを行った。
- ・長期履修生の希望者があり、1年次より計画的な指導を実施した。
- ・倫理審査委員会の開催日程にあわせて、修士論文指導を計画書的に実施した。

【学生指導】

- ・入学時より論文指導教員と他教員によるチームティーチングを行い、計画的な論文指導を行った。
- ・入学時オリエンテーション時に教務委員より学生便覧に基づくコースアウトラインの説明を行い、学生の履修計画指導を実施した。

【入学者選抜】

- ・社会人経験のある受験生が多く、応募者は学部の修了生も応募するようになってきている。
- ・応募者は、昼夜開講の大学院で学修したいとのニーズがあり、職業継続と学修の両立が可能であることをホームページで知り応募した者が多い。また、修了生や在校生より紹介を受けて応募する場合も多くなっている。

【社会貢献】

- ・大学院と国立病院機構埼玉病院の共同研究を6年間継続し発展している。がんピアサポーターへの支援に関する研究に取り組み、成果は学会で共同研究者と発表し、がんピアサポーター支援の講演会を開催し、多くの受講者が県内・関東圏より参加した。

【組織マネジメント】

- ・3分野長との定例的な会議を開催し、組織運営・教員任用について審議した。論文審査など公正な運用を実施した。
- ・研究科委員会で、各委員会の委員より提出された審議・報告を行い、教員間で情報を共有し課題の検討を行った。

(2) 今後の課題

- ・受験者への周知広報活動を強化し継続して取り組む。
- ・中期計画の目標が達成できるよう組織的に取り組み、さらなる教育の質の向上および研究成果を出すための新しい取り組みを検討する。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価	研究科(修士)用評価シート	組織名称 (評価単位名称)	看護学専攻
---------------------------	---------------	------------------	-------

項目	自己評価 ※箇条書きにて記入
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム改正の検討結果に基づき、諸手続きを実施した。 ・修士論文のテーマを明確にするために担当分野の院生を対象にフィールドワークを実施した。それぞれ、研究課題につなげられる学びを得ることができた。 ・学問的視野を拡大することは、論文を執筆する上で深い洞察につながる。そのことを狙いとして健康に関係する図書や文献を輪読した。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生が研究疑問を検討するきっかけになることや思考の広がりを目指した教育方法および内容をさらに検討する必要がある。 ・看護系大学院修士課程のコアコンピテンシー（目白版）を検討する必要がある。
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倫理的配慮における指導が主であった。 ・学生の意見を聴く会を開催し、改善に向けて学生のアンケート調査を実施した。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・院生の能力に合わせた論文指導が必要である。院生のテーマにあわせ、質的研究と量的研究の両方の指導ができるよう教員の研修企画を行う。
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・埼玉県看護協会において看護研究に関する集中講義を実施した。 ・川口市立医療センターにおいて看護研究に関する講義を実施した。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の勤務病院への看護研究指導をとおして、学生募集の周知も行う。
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倫理審査の結果について、細やかな対応を行った。 ・学生がキャンパス内の宿泊施設を利用し、論文作成時間を捻出する等、好評であった。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員が使用している研究室のPCが古く、新たなシステム対応が必要となる。
その他	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生募集の簡易版リーフレットを作成し、学会等で配布した。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育訓練給付金、長期履修制度など進学に有利な条件をアピールし学生募集の戦略を立てる。

(1) 特筆すべき事項

- ①教員審査を実施し、来年度から理学療法リハビリテーション分野1名、言語聴覚療法リハビリテーション分野2名の教員を大学院担当教員に加えた。いずれも研究指導補助教員である。
- ②研究法（質的研究法）に関する教育を充実するために、非常勤講師による授業の充実を図ったほか、著名な非常勤講師による授業を他研究科担当教員にも受講できるようにし、教育レベルの向上を図った。
- ③大学院研究科のAP、DPを作成するとともに、大学院研究科の中期計画を作成した。
- ④修士論文の指導で、構想発表会（5月）、中間発表会（11月）、最終発表会（2月）を実施し、最終試験を経て4名が修士学位を取得した。また、1年次から実質的に論文指導を開始し、プレデザイン発表会を秋学期11月に新設して実施した。
- ⑤新年度より岩槻キャンパスでの予算関係事務が可能になったので、より円滑な予算執行を実現したい。なお学生からの実験実習費にかかる手続き等は新宿キャンパス教務グループで引き続き担当するため、学生にとっての不便は生じない。
- ⑥研究の実験や資料収集が早期から実施できるよう、プレデザイン発表前に「目白大学人及び動物を対象とする研究に係る倫理審査委員会」への申請を行う体制を整備し、学生に指導した。
- ⑦リハビリテーション学研究科主催の公開フォーラムを10月に開催し、外部講師を招聘して「生活行為向上マネジメント」について日本作業療法士協会会長と湘南医療大学の先生に講演をお願いした。厚生労働省が提唱している生活行為向上マネジメントとの考え方とその実例を研修し、70名を超える参加者を得た。
- ⑧平成27年度入学生から「教育訓練給付金」の対象となる指定講座として内定し、入学案内等で学生に周知した。
- ⑨受験生確保、入学生の専攻分野のアンバランスの解消を目指して、リハビリテーション職者の多い病院・施設等への訪問説明会を1回実施した。また、受験生確保のため、入学案内を関東近郊の専門学校を抜粋し送付した。

(2) 今後の課題

- ①一層の教育の充実を図るために、教員審査を適正に行い、教育内容に適する必要な教員を増員し指導体制を充実させたい。
- ②博士後期課程の設置についてリハビリテーション学研究科独自の構想として検討を継続する。そのために、博士課程への入学希望等に関する調査を継続して実施したい。
- ③学生同士で研究的交流を活発に展開することができるよう、意見交換できる場を提供したい。
- ④新年度より岩槻キャンパスでの予算関係事務が可能になったので、より円滑な予算執行を実現したい。なお学生からの実験実習費にかかる手続き等は新宿キャンパス教務グループで引き続き担当するため、学生にとっての不便は生じない。
- ⑤受験生確保のために専門学校等に訪問し案内を広げる必要がある。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	研究科(修士)用評価シート	組織名称 (評価単位名称)	リハビリテーション学専攻
--------------------------	---------------	------------------	--------------

項目	自己評価 ※箇条書きにて記入
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>① 教員審査を実施し、来年度から理学療法リハビリテーション分野1名、言語聴覚療法リハビリテーション分野2名の教員を大学院担当教員に加えた。いずれも研究指導補助教員である。</p> <p>② 研究法（質的研究法）に関する教育を充実するために、非常勤講師による授業の充実を図った。</p> <p>③ 著名な非常勤講師による授業を他研究科担当教員にも受講できるように、教育レベルの向上を図った。</p> <p>④ 大学院研究科のAP、DPを作成した。</p> <p>⑤ 大学院研究科の中期計画を作成した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>① さらに教育の充実を図るために、教員審査を適正に行い、教育内容に適する必要な教員を増員し指導体制を充実させたい。</p> <p>② 博士後期課程の設置についてリハビリテーション学研究科独自の構想として検討を継続する。そのために、博士課程への入学希望等に関する調査を継続して実施したい。</p>
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>① 修士論文指導において、構想発表会（5月）、中間発表会（11月）、最終発表会（2月）を実施、最終試験を経て4名が修士学位を取得した。</p> <p>② 1年次から実質的に論文指導を開始し、プレデザイン発表会を秋学期11月に新設して実施した。</p> <p>③ 研究の実験や資料収集が早期から実施できるよう、プレデザイン発表前に「目白大学人及び動物を対象とする研究に係る倫理審査委員会」への申請を行う体制を整備し、学生に指導した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>① 学生同士で研究的交流を活発に展開することができるよう、意見交換できる場を提供したい。</p>
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>① リハビリテーション学研究科主催の公開フォーラムを10月に開催し、外部講師を招聘して「生活行為向上マネジメント」について日本作業療法士協会会長と湘南医療大学の先生に講演をお願いした。厚生労働省が提唱している生活行為向上マネジメントとの考え方とその実例を研修し、70名を超える参加者を得た。</p> <p>② フォーラム、公開講演会等は生涯福祉研究科と相互に協賛して実施した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>① 公開フォーラム開催、生涯福祉研究科との相互協賛は今後も継続して、院生の教育に資すると共に社会貢献の機会としたい。</p> <p>② フォーラムの周知方法には改善の余地があり、次年度は広報を充実させる計画である。</p> <p>③ 公開フォーラムは28年度は日本保健科学学会と合同で開催する予定である。</p>
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>① 毎月、保健医療学部教授会と連動してリハビリテーション学研究科委員会を開催して（計11回）、情報の共有を図った。</p> <p>② 教務委員会と入試広報委員会は原則合同で月1～2回開催し（計13回）、研究科運営に関わる企画立案、推進を担当した。</p> <p>③ 研究科予算の立案、執行について研究科長・専攻主任を補佐する担当教員を置き、また予算関係事務が岩槻キャンパス庶務で可能になるよう申請して、予算執行体制の改善を図った。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>① 新年度より岩槻キャンパスでの予算関係事務が可能になったので、より円滑な予算執行を実現したい。なお学生からの実験実習費にかかる手続き等は新宿キャンパス教務グループで引き続き担当するため、学生にとっての不便は生じない。</p>
その他	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>① 平成27年度入学生から「教育訓練給付金」の対象となる指定講座として内定し、入学案内等で学生に周知した。</p> <p>② 受験生確保、入学生の専攻分野のアンバランスの解消を目指して、リハビリテーション職者の多い病院・施設等への訪問説明会を1回実施した。</p> <p>③ 受験生確保のため、入学案内を関東近郊の専門学校を抜粋し送付した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>① リハビリテーション3分野（理学療法、作業療法、言語聴覚療法）を基盤とした博士後期課程設置に向けた検討に取り組む。</p> <p>② 受験生確保のために専門学校等に訪問し案内を広げる必要がある。</p>

学部・学科

(1) 特筆すべき事項

【教育】

- ① 学会を主催、海外スタディツアー、学科行事、学科講演会などを通じて、教員や学生の学びを深め、専門家としての資質と能力を育てる取り組みを行った（児童教育学科・心理カウンセリング学科・子ども学科）。
- ② 実習園や実習施設と連携して情報交換・意見交換を行い、質の高い専門家の養成と就職先の確保に努めた（子ども学科・人間福祉学科）。
- ③ 学習の定着を目指して、授業の工夫や学生にきめ細やかな対応を行った（人間福祉学科）。

【研究】

- ① 学術図書助成金を得て学科で図書を刊行した（児童教育学科）ほか、各学科で複数の教員が書籍を出版した。
- ② 新規科研費の採択数は少なかったが、継続を含めると心理カウンセリング学科の10名をはじめ人間学部で19名が採択された。
- ③ 各学科の教員が関連学会で多数発表や学会誌と大学紀要へ投稿している。
- ④ 教員同士で文献レビューをまとめるなど地道な研究がおこなわれた。

【学生指導】

- ① 学生に対して教員が挨拶のロールモデルを示すことで学生のマナーが向上する効果があった（子ども学科）。
- ② 各学科ともベーシック・セミナー、キャリアデザイン、ゼミなどを通じて、個別面接をすることで課題を抱える学生を早期に把握し、その情報を共有することで適切な対応ができています。
- ③ 実習支援室で実習に行く学生に対して、不安の軽減など丁寧な指導がおこなわれた（人間福祉学科・子ども学科）。
- ④ 学科イベントやボランティアを通じて学生の社会性や協調性を育む機会になった（子ども学科・児童教育学科）。

【社会貢献】

- ① 各学科の教員が学会、職能団体、協議会などの役員や国および地域の教育委員会、学校などの委員として重責を担って活躍・貢献している。
- ② 大学が新宿区などと調印した包括連携や福祉施設との連携をふまえて、学科、教員および学生を交えた活動や貢献の場として活用した（人間福祉学科・子ども学科）。
- ③ 新宿区内の小学校に、教員の指導の下でピアサポーターや学校ボランティアとして、また、保育ボランティアとして学生が学校教育現場などに寄与した（心理カウンセリング学科・子ども学科・児童教育学科）。

【組織マネジメント】

- ① 学科会議を通じて情報の共有化を図るとともに、学科の教育活動、役割分担の公平化と明確化するとともに教育活動について共通認識をはかった（子ども学科・児童教育学科）。
- ② 教員によってコマ数や委員などの業務に偏りがあり、その状況が長く継続している（人間福祉学科）。

(2) 今後の課題

【学部】

- ① 予定されている人間学部改組において、各学科の意向をふまえて、社会のニーズに合った、そして学生、大学にとって意義のある新たな学部学科の開設につなげる。
- ② 公認心理師養成に向けて情報を収集しながら開設に向けて準備する。
- ③ 障がい学生をはじめ、課題を抱える学生に丁寧に各学科全体で対応する。
- ④ 社会状況の変化、社会のニーズをふまえて就職活動を丁寧に支援する。

【教育】

- ① 社会の状況の変化により、現在は堅調な就職先も今後変化が予測され、その対応や学生指導を検討する必要がある（子ども学科・児童教育学科）。
- ② 学習に問題をかかえる学生に対して教員間で情報を共有して早期の対応が求められる。また、障がい学生に対して情報を共有して教員の協力体制を作る必要がある（人間福祉学科）。

【研究】

- ① 科研費、学内特別研究費など外部資金の申請に積極的に取り組むとともに、その成果を発表することをさらに進める必要がある。
- ② 研究を進める上で、各学科とも教員の持ちコマが多く、研究する時間の確保が厳しい状況にあるので、教員相互にうまく分担しながら研究を活発にしていく必要がある。

【学生指導】

- ① 退学者、休学者、卒業延期者、学費未納者を減らす方略の検討や復学者へのサポートが重要な課題である。
- ② 就職希望男子学生や大学院進学後のキャリア形成に対して支援する必要がある（心理カウンセリング学科）。
- ③ 障がい学生に対する授業の支援やさまざまなボランティア活動を通じて実践的な学びにつなげるようにする。

【社会貢献】

- ① 教育や福祉の現場との連携や共同研究を通じて、相互に学び、活用できる仕組みを作る必要がある。
- ② さまざまな社会貢献の取り組みに多くの学生が参加できる仕組みを作ることが重要である。

【組織マネジメント】

- ① 退職者をふまえて年齢のバランス、必要とする授業科目を考慮して人事構想を立てて適切な人材を確保する。
- ② 授業担当、ゼミ担当、業務がバランスの取れるような人員の確保と配置を考える必要がある。
- ③ 話し合いを通じて学科の課題を共通理解し、国試合格率を上げ、魅力ある学科にして学生募集につなげる。

【その他】

- ① 予定されている人間学部改組において、各学科の意向をふまえて、社会のニーズに合った、そして学生、大学にとって意義のある新たな学部学科の開設につなげる。また、改組について学部教職員の共通理解を得て実施できるようにする。
- ② 新宿区の後援や包括連携を教員の研究や学生の活きた学びにつなげるように努力する。
- ③ 障がい学生をはじめ、課題を抱える学生に丁寧に各学科全体で対応する。
- ④ 社会状況の変化、社会のニーズをふまえて、各学科の特性を活かして就職活動を丁寧に支援する。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価	学科用評価シート	組織名称（評価单位名称）	心理カウンセリング学科
---------------------------	----------	--------------	-------------

項目	自己評価 ※箇条書きにて記入
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>① 例年通り、学科講演会を2回実施した。 2015年7月：「産業領域における心理学卒の働き方」 2016年1月：「警察官であること、臨床心理士であること」</p> <p>② 2年次の精神保健福祉士養成コースの学生募集を、平成28年度入学生を最後に廃止することとした。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>① 精神保健福祉士養成コースの学生に対する今後4年間の教育について、心理カウンセリング学科として具体的に検討する必要がある。</p> <p>② 公認心理師法案が成立したことにより、公認心理師養成に向けた方針を、大学院心理学研究科とともに検討する必要がある。</p>
研究	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>① 投稿論文数、書籍等出版物については、ほぼ例年同様の成果がみられた。</p> <p>② 学会発表件数については、去年の26件から15件に減少した。</p> <p>③ 10名の教員が科学研究費採択されている。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>① 研究のための時間確保</p>
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>① 就職率90%を目標とし、キャリアセンター員を中心に各ゼミ教員が学生への働きかけに努力した。結果として92.1%の就職率であったが、女子学生の就職率が去年の89.8%から94.7%に上がったことによるもので、男子学生は84.5%前後で変化はなかった。</p> <p>② 休学者を除いた単位不足による卒業延期者は15名であった。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>① 個々の学生の事情があるが、就職を希望している男子学生への支援に努める。</p> <p>② 大学院進学者が一定数おり、進学支援と同時に、その先のキャリア形成を視野に入れた支援が必要である。</p> <p>③ 卒業延期者については、学生個々の事情に応じた対応を早期より、クラス担任・ゼミ担任を中心に行っていく。</p>
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>① ピアサポートの授業では、新宿区と提携し、16名の学生が区内小学校にピアサポーターとして赴き、スクールカウンセリングの補助を行い学校現場に寄与した。</p> <p>② 新宿区特別支援教育事業において、3名の専任教員が巡回指導を行った。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>① 上記ピアサポート授業を継続する。</p> <p>② 新宿区特別支援教育事業での巡回指導を継続する。</p>
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>① 今年度で任期満了となる助教2名の公募・学科内選考を行った。</p> <p>② 准教授の教授昇格のための学科内審査を行った。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>① 本学科は役職者が多いため、授業担当、担任・ゼミ担当について、至急具体的な対策を検討し、来年度に向けて実施していく必要がある。</p>
その他	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>① 2015年9月に公認心理師法案が可決、成立した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>① 公認心理師養成に関する正確な情報を収集し、在学生、入学希望者に対して適切に伝えていく必要がある。</p>

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価		学科用評価シート	組織名称（評価単位名称）	人間福祉学科
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入			
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>① 国家資格受験対策のための科目も多く、各教員は、学生をある程度までのレベルの理解を導くための工夫を小テストやレポート、映像などを使用するなど努力している。</p> <p>② 教員間で、国家試験の必修科目であっても福祉マインドを育てていくという姿勢が根本にあり、学生にきめ細やかに対応している。</p> <p>③ 学習の力量不足や学習環境などの問題とされる学生については、学科会議などで意見交換をしている。</p> <p>④ 卒論指導について教員によって時間や内容に格差があり、教務委員や学科会議に対策の会議を行った。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>① 従来より行っているが、学科会議において、単位未修得学生に対する状況の共有化や意見交換を通して、学生の学習上の問題状況への対応を積極的に進める。</p> <p>② 障害学生が入学してきたことにより、情報共有しながら教員の協力体制もしっかりさせていく。</p>			
研究	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>① 個別の教員が、科研費の公募に臨んだが、採択にいたらなかった。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>① まず、科研費公募者数を増やしていく。また、科研費以外の外部研究費の獲得にもできるだけ情報提供し、公募を募る。</p>			
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>① 学科会議で、気になる学生の情報を交換することにより、長期欠席や単位履修の問題なども教員間で共有できている。ベーシックセミナー・キャリアデザイン、各ゼミ担当の努力もされてきているが、教員個人の力量に任せてしまうのも問題である。</p> <p>② 障害学生が入学してきたことは学生にとって福祉の大きな学びとなる。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>① 授業料未納の学生への対応は、1、2年の時からの教員が家庭状況や、アルバイトなどの把握が重要である。また、長期欠席も引き金になっていることから、早期の教員間の連携なども必要である。学科会議での情報交換を大切にしながら、それらの情報をもとに対応していく。</p> <p>② 教員の対応に個人差がある場合は、学科会議等で共有しあうことや、学科長が様子を聞くなどして個人対応の負担を軽減する。</p> <p>③ 学生が学内の障がい学生に対するノートテイクや、地域ボランティアに参加することにより、福祉の実践的な学びとなるので進めていく。</p>			
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>① 各教員は、現在までの地域との連携、多職種との連携などを図ってきている。また、各種の委員会や学会、協議会の役員としても重要な役割を担っている。特に昨年度に、新宿区と目白大学の地域包括連携調停されたこともあり、学科としてこれまでの活動も見直している。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>② 新宿区を中心に地域包括連携を進めて学生の学びに役立てる。現場との連携や共同研究、また、現場から大学への学びに活用されるようにできればと考える。</p>			
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>① 長年、教員によって、科目数や委員などの偏りが大きいという現状がある。しかも一部の教員がどちらも多くなってしまうという現状がある。学科としてできるだけこの格差を少しでも少なくしていくことに目を向けなければならない。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>① 改組の件もあるが、学科として入学生を増やしていくためには、学科の魅力を作っていかなければならない。それは普段からの教員間で話し合われているのかなども大きく影響している。科目数や委員などの偏り重みがあっても学科全体のことを考えている教員もいる。ざっくばらんに話し合えるように提案していき、課題を学科教員全体が共有できるようにしたい。</p>			
その他	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>① 下記の課題として記述する。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>① 障がい学生が途中で挫折しないよう、学生のボランティアを進めたり、教員が情報共有したり学科全体で取り組む。</p> <p>② 入学者の減少には、改組計画もあるが、学科の教員の意識も重要である。魅力ある学科を作るためにはどのような学びがあるのかを各教員一人一人が意識して作っていかなければならない。</p> <p>③ 国試の合格率を上げることも学科の評価につながる。年度ごとの反省も踏まえ各先生が取り組めるようにする。</p>			

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価		学科用評価シート	組織名称（評価単位名称）	子ども学科
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入			
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>① 学生の積極的な授業参加のための工夫を行い、授業改善を行っている教員が多く見られた。学生の評価も概ね良く知識定着にも効果が上がっている。特にベーシックセミナーの内容が向上した。</p> <p>② 実習園との実習懇談会の開催による連携強化がなされた。実習懇談会は毎年実施しているが、徐々に参加園が増加してきており、実習に関して有意義な意見交換が行われた。</p> <p>③ 公務員試験講座は昨年度より受講者が増えた。担当教員の働きかけ、指導の効果であると思われる。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>① 28年度より新カリキュラムがスタートするため、スムーズに移行し、カリキュラム改正の効果を高めることが最も重要な課題である。</p> <p>② 就職率は高いものの、保育系専門職への就職が微減しており危惧される。大学での学びを生かす、質の高い保育者を養成するとともに、質の高い保育現場に就職できるルート作りが必要である。</p>			
研究	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>① 研究の成果を書籍にまとめ出版したり、様々な場での発表を行ったりする教員がいた。また、そのような研究活動が外部に認められて、さらに研究の活動を広める教員もいた。</p> <p>② 昨年度、学科全体で「子ども学」に関する書籍を作成することとなり、本年度はその内容、形式などを検討するとともに、「子ども学」に関する文献レビューなどを複数の教員で行った。次年度にはほとんどの専任教員が関わり原稿を書く予定である。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>① 養成課程であるゆえに各教員の受け持つコマ数が多く研究に充てる時間の確保が難しい場合がある。夏・春の授業が無い期間も実習訪問などに割かれることがある。全学科教員で上手く分担しながら研究時間の確保も図る必要がある。</p> <p>② 科研費などの競争的外部資金の獲得を増やし、研究活動が活発化するように推奨していく。</p>			
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>① 保育者養成課程であることから、挨拶をはじめとしたマナー教育に力を入れてきた。4号館前での教員による挨拶運動は効果を上げており、声を出してしっかり挨拶をする学生が増えている。</p> <p>② 実習支援室において個々に応じたきめ細かい指導を実施しており、実習に対する不安の軽減、学生の状況把握などが行えている。</p> <p>③ ベーシックセミナーやキャリアデザインなどを通して、担任と面談を行い、学生の問題把握が比較的早い段階で行っていた。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>① 退学者、休学者がやや増加傾向にあるため、これらに歯止めをかけて減らしていく必要がある。また休学から復学をする学生へのサポートもしっかり行いたい。</p> <p>② 留年、休学などにより学年がずれる学生への対応に手薄な点があり、一般的な学年進行をしていない学生への配慮が必要である。</p> <p>③ 行事参加に対する意義を学生自身が理解し、積極的にかつ安心・安全に参加できるような教員のサポート体制が求められる。また、学生が主体的に考え、活動する場面を意図的に作る必要がある。</p>			
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>① 近隣の保育所や幼稚園との交流（「まみむめめじろ」への招待、「子どもと自然」での共同作業、桐和祭での交流）が例年通りなされ、近隣園からの評価が高い。</p> <p>② 新宿区との連携ができつつあり（「まみむめめじろ」の後援、神楽坂老人施設でのワークショップ開催）、新宿区教育委員会などからの評価、期待が高くなってきている。</p> <p>③ 大宮アルディージャでの試合中の保育ボランティアに毎試合数名の学生が参加し、好評化を得ている。学生の学びの場にもなっており、今後も続けていけるとよい。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>① 上記のどの活動にも、学生は積極的に参加するがメンバーが固定化しないように、多くの学生が参加できるようなシステムを作る。</p> <p>② 地域における要望や期待をリサーチし、それにそった活動を行う。</p>			
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>① 学科内の業務分担を公平化及び明瞭化するために、年度初めに役割分担一覧を配布した。</p> <p>② 出勤時の押印、教員間の報連相等は比較的協力が得られていた。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>① 新人が2名加わったことをふまえ、全教員が一丸となって学科運営に取り組む。</p> <p>② 次年度も退職予定者が複数いるため、代わりとなる良い人材を早めに確保する。同時に、学科教員の年齢バランスが悪いので、配慮した人事採用を行いたい。</p>			
その他	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>① 毎年実施している「まみむめめじろ」の開催に関して、新宿区及び新宿区教育委員会の後援を頂くことができ、新宿区との連携が強化された。</p> <p>② 実習指導のテキストとなる『実習の手引き』を大幅に見直し、改訂を行った。子ども学科の目指す保育者像を明確にし、今後の実習指導に十分生かせる内容となった。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>① 学科行事が様々な効果を上げているが、同時に規模が大きくなりつつあり、運営の見直しが必要である。特に学生の安全面への配慮、授業との関連など、次年度に関係教員で協議する必要がある。</p> <p>② 保育関連の職種の給料が低いことが公になったことで、学生の就職へのモチベーションが下がらないような働きかけが必要であると同時に、保育関連に進まない学生に対しても丁寧な指導をしていくこと。</p> <p>③ 学外からの見学等が多い動植物の設備が一部老朽化しているため、清潔で安全な環境を整える必要がある。</p>			

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価		学科用評価シート	組織名称（評価单位名称）	児童教育学科
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入			
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育学会全国大会(会場:目白大学)の企画行事の一環として、アグネス・チャン氏を講師に招いて、児童教育学科1年生がピースポエムプロジェクト(平和の詩の朗読会)を実施し、好評を得た(2015.7)。 ・3月にマレーシアへのスタディーツアーを実施した。 ・授業において、教育における現場性と身体性を重視し、各種教育施設の訪問、グループ活動、フィールドワークなど、多彩な学習活動を展開してきた。近年、発表力や企画力などの面で学生の成長度が著しい。その成果は、大学祭での発表やフレッシュマンセミナーでの学科プレゼンテーションなどで確認できる。 ・児童教育の専門家の資質・能力として重要な創造性・感性、体力を高めるため、合唱やウォークラリーなどを通じて、体育・芸術系活動(音楽・美術)に積極的に取り組んでいる。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、教員採用の難化が予想されるため、教師養成塾や教員採用研修などでの指導内容を見直し、各都道府県の施策に応じたきめ細かな学内・学科対応策を検討する。 			
研究	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学の学術図書助成金を得て、児童教育学科編集の図書を刊行した(児童教育学科編『未来を拓く児童教育学—現場性・共生・感性—』三恵社、2015.12刊 全380頁)。専任・非常勤・元教員27名が執筆した。 ・科学研究、学内特別研究を受給するなど、熱心な研究が行われた。 ・本学科在籍教員が博士号の学位を取得するなど、学科内に地道な研究を行う気風が育ってきた。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2016年秋以降、教職科目を中心としたカリキュラム見直しが見込まれることを鑑み、各自の研究の進捗とその成果の発表が求められる状況がある。そのため、学科として、以下の取り組みを強化する。 ① 科研費、学内特別研究費、外部資金の獲得を奨励し、その過程で学科教員の研究力量の向上をめざす。 ② 学会誌、紀要等の投稿を促し、研究成果の発信に努める。 ③ 学位取得を奨励し、研究の高度化に対応した人材育成を進める。 			
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス、ゼミにおける学生に対する個人面談や、学科会議での学生情報の共有化を通じて、個々の学生の実体把握に努め、学生に対するきめの細かい指導を行うことができた。 ・フレッシュマンセミナーでの学科イベント、山手線ウォークラリー、学年末集会などの学科行事を通じて、大学や学科への帰属意識を高め、学年を超えた協力体制を確立できた。 ・学校ボランティアを積極的に推進し、ほとんど学生が学校でのボランティアを行った。その結果、社会性や協調性を育むことができた。教師養成教育としての成果があがった。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童教育学の専門家として、人間的基盤を広げるための体験についての機会が少ない。体験を増やすことが課題である。 			
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教員が学会役員、文科省・国立教育政策研究所等の各種委員を務めた。とくに、留学支援のための委員として、多大な貢献を果たした。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後は、学科所属の社会貢献活動を、本覚の教育や学生指導に結び付けていくことが求められる。 ・今後は、各教員が様々な教育機関との共同研究で得た成果を学科全体で共有していくことが期待される。 			
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月2回の学科会議を定例化し、教務・入試広報、学生、キャリア、図書の閣員の内容を報告しあい、情報の共有化を図った。 ・資格支援センターと連携し、免許更新制度、実習の連絡・調整に努めた。 ・日本学校教育学会全国研究大会を学科教員の協力のもとに成功させた(7月)。 ・学科の教育活動や業務について、全教員が共通認識をはかり推進していく体制を構築した。 ・学科会議の運営に若手教員が参加する体制を整備した。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科教員が高い共通意識を保持し、協力して推進していく体制づくりを一層進める。 			
その他	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中野教育委員会との連携により、小学校観察実習を推進し、学生の高いモチベーションを保持できた。 ・学生による学科新聞を継続的に刊行でき、学生の主体性や意識の成長と高まりが感じられる。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新カリキュラムの移行後、2年が経過した。2016年度は新カリキュラムの中間評価を行う。 ・馳プランが今秋国会を通ることが予想され、教職カリキュラムの見直しが避けられなくなっている。教職カリキュラム1に関する情報収集に努める。 ・教員採用の状況が不透明感を増している。東京都や隣接諸県の採用状況について情報を収集し、学生指導に生かしたい。 			

(1) 特筆すべき事項

<教育>

- ①カリキュラムに関しては、社会情報学科では企業24社の講師を招いて企業の実践的マーケティングを学ぶ授業を展開、メディア表現学科ではインターンシップの会を継承実施、地域社会学科ではゼミとフィールドワークを連動させた現場教育を実践するなど、各学科ともにユニークな教育方針のもと学生の興味や関心を引き出す授業が実践された。
- ②卒業研究は3学科ともに必修であり、執筆要領の配布や研究計画の提出など、学生の動機を高めるための工夫がなされた。とくに社会情報学科では中間審査会や最終審査会を開催、メディア表現学科では卒業研究審査会や卒業研究優秀者発表会を開催するなど、卒業研究の厳格な審査と質的向上に努めた。
- ③初めての試みとして社会学部の学生を対象とした「アッハ！体験」プロジェクト（主体的な学び体験の企画）を募集し、採択実施された9団体の成果発表会が開催され、成果報告書が作成された。

<研究>

- ①論文・出版物の件数は、学部全体で均すと教員一人当たり1～2編に相当し、積極的に研究活動に取り組んでいる。
- ②科学研究費の採択件数は、学部全体として継続・新規を併せて7件であり、外部資金獲得への意欲も認められる。
- ③共同研究に関しては、社会情報学科が「ソシオ情報シリーズ」第15号『社会情報学から社会デザインへ』を刊行した。

<学生指導>

- ①3学科ともに、問題学生の早期発見と留年・退学を減らす対策として、学科会議などで問題学生（出席不良・成績不振）に関する情報共有、学生本人との面談はもちろん、成績表の保護者宛て送付、保護者会の開催、保護者との面談など、学科長を中心にクラス・ゼミ担任と学生本人や保護者との連絡を密にした。
- ②3学科ともに、入学前教育としてのフォローアップセミナーと初年次教育としてのベーシックセミナーを学科の特徴を活かす形で開講し、大学生としての自覚を促した。
- ③3学科ともに、就職内定率は90%台、とくに社会情報学科では就活相談会の開催や求人リストの配布などが奏功したと見られ97%と学内トップクラスを達成した。
- ④3学科ともに、資格取得のための指導に力を入れ、教員免許、学芸員資格、社会調査士、全国大学実務教育協会認定資格などで実績を上げた。

<社会貢献>

- ①3学科ともに、学会・協会の役員や公共団体等委員を担う教員が多数おり、とくに地域社会学科では23件であり、指導的な立場での社会貢献がなされた。
- ②3学科ともに、地域連携や産学連携を伴う社会貢献事業に積極的に取り組み、とくに社会情報学科では気仙沼市での防潮林再生事業や新宿区戸山地域コミュニティ開発事業、メディア表現学科ではトキワ荘通り協働プロジェクトや目白大学新聞発行、地域社会学科では「染の小道」や「遺跡フェスタ」、戸田市市民大学講座や新宿エコ市民大学など、数多くの成果を上げた。
- ④3学科ともに講演会等事業に力を入れ、社会情報学科では学科講演会「今日からできる社会貢献」、メディア表現学科ではシンポジウム「デザインにおける創作活動と著作権」、地域社会学科では地域フォーラム「若者の政治参加と日本の未来を考える」を開催した。

<組織マネジメント>

- ①社会学部の非常勤講師と専任教員との教育懇談会を開催し、学生や教育をめぐる意見交換や情報共有の機会を設けた。
- ②3学科ともに、オープンキャンパスでの学生募集に力を入れ、社会情報学科ではPR内容を刷新、メディア表現学科では「学びフェスタ」で全教員が授業、地域社会学科では「地域カフェ」を開設、また地域社会学科紹介冊子『Mejiro Community Studies Vol.7』を刊行した。
- ③平成28年度入試は3学科とも粘り強く健闘し、とくに社会情報学科と地域社会学科では結果的に定員充足率を大きく伸ばした。

<その他>

- ①第3次中期目標・計画の一環として、4つのワーキンググループを走らせ、まずは現状把握のためのアンケート調査等の実施を検討した。
- ②社会学部の学科間連携プログラム（DLP）として「環境学」「メディア文化」「観光とまちづくり」「ファッション文化」の4つのプログラムを立ち上げた。
- ③社会学部の全教員を対象とした「将来構想アンケート」を実施して、社会学部のミッション、3学科の差別化・相乗効果及び改組について意見を諮った。

(2) 今後の課題

- ①教育面では、とくに社会情報学科と地域社会学科において現カリキュラムの効果検証と新カリキュラムの検討・導入が課題である。
- ②研究面では、学生指導や学内業務に時間を割かれながらも、更なる論文作成や学会発表、科研費申請が要請されている。
- ③学生指導面では、新たに導入されたアラートシステムを活用した中退予防対策、キャリアデザインやキャリアセンターによる就職活動支援の強化が期待される。
- ④社会貢献面では、すでに多くの実績を残しているが、更に学科を越え専門を越えた共同事業や連携事業ができないか検討の余地がある。
- ⑤組織マネジメント面では、学科間の連携強化、学部教授会の活性化、入試対策と広報戦略の見直し、学部再編を視野に入れた将来構想の再検討など、課題が山積している。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価		学科用評価シート	組織名称（評価单位名称）	社会情報学科
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入			
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①新カリキュラムを導入して2年目を迎えた。ユニット等の学習意識を高める方策として、学年進級時にユニット選択等の学生が目指す専門領域を提出する等の指導を強化できた。</p> <p>②卒業研究の質的向上を図るべく、中間審査会・最終審査会、論文提出等について合否判定・再試験等を厳格に実施した。</p> <p>③ベーシックセミナー3年目を迎え、大学全体の方針に即しつつ、学年全体や個別クラス指導等を順調に運営できた。</p> <p>④実学を当事者から学ぶ機会としての「現代の社会1（ファッションブランド戦略論）」「フードブランド戦略論」は、企業24社の講師を招き、企業の実践的マーケティングを学ぶ機会を展開した。</p> <p>⑤フォローアップセミナーを開催し、大学での学び、新聞読解を指導し、一般入試過去問の解答と新聞記事要約を他日提出させ、評価した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①2年経過した新カリキュラムの円滑な運用と教育効果の検証を図り、学士力向上に資する教育展開の充実や学生募集にも資する見直しを検討する。</p> <p>②AP・CP・DPとカリキュラムの整合性を検証し、就活などの具体的成果と社会的評価を受ける教育成果の創出を検討する。</p>			
研究	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①科研費の給付を受けた教員は、継続採択3件であった。</p> <p>②学科の研究及び教育書籍「ソシオ情報シリーズ」第15号『社会情報学から社会デザインへ』を刊行し、10名の学科教員が寄稿した。</p> <p>③10/24(土)桐和祭で学科講演会「今日から出来る社会貢献～アジアの母と子を笑顔にするために～」を開催した。ソーシャルデザイン分野の研究と教育の機会創出ができた。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①教員にとっての十分な研究活動（学会参加・論文作成）の実現を期したい。</p> <p>②対外的研究資金の更なる獲得を目指し、研究活動の充実を期したい。</p> <p>③海外の学会活動等で精力的に研究に励む教員もいるが、全体的に教育活動・学生指導に時間が割かれる現状がある。効率的な学科運営を図り、教員の研究活動に従事する時間の確保を目指したい。</p>			
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①学科会議、ML活用等で、特に注視する学生の学科内情報共有により適切な指導ができた。</p> <p>②成績・出席不良学生には、クラス・ゼミ担任のコメントつき成績表を保護者宛に送付した。</p> <p>③3年次生は秋学期後半より、4年次生は1年間を通じて社情就活相談会を週1回実施し、就活相談の実施や「求人リスト」等資料を週1回発行した。</p> <p>④内定率 97.1%で好調であった。キャリアセンター活用を学生に勧め、保護者向け就活相談会を開催、ゼミ担当者が保護者面談を行った。</p> <p>⑤1年次生全員対象の学科長面談を春学期に実施し、初年次の円滑な大学生活への誘導を図り、学生の不安等の解消に資した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①1・2年次生は担任が学期ごとに個別面談をしているが、さらに可能な限り個別面談等の機会を創出し、学生の把握と指導を徹底したい。これらの中で中途退学者の削減に結びつける策の一つとして重視する。</p> <p>②TOP UP教育の可能性を検討し、人材育成の更なる向上を目指す。</p> <p>③内定率は前年比で0.7ポイント上昇した。これに甘んじず100%を目指して就活指導を強化したい。</p>			
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①気仙沼市を中心に東日本大震災復興へのボランティア活動として、防潮林である照葉樹林の苗木の育成を新宿で、苗木の植林を現地で展開した。また担当教員のコーディネートのもとに学科学生が参加する機会が設けられた。</p> <p>②学会役員等を引き受け、社会貢献事業に携わる教員が見受けられた。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①ソーシャルデザインユニット等の学びに直結したボランティア活動への参画等、学生を巻き込んだ社会貢献の場を増やしていきたい。</p> <p>②社会に提言していく場として、社会学部研究所（仮称）の設立構想に着手したが、これを実現の可否を継続検討したい。</p> <p>③学生の教育効果とも連動した、社会的な学習成果を社会貢献する視点から検討したい。</p>			
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①学科FD研修会は3回ともほぼ全員が参加した。</p> <p>②学科内の共通課題認識、課題定期を得るために、「ソシオシリーズ」刊行を継続できた。</p> <p>③オープンキャンパスのための学科PR内容を刷新した。社会心理実験による受験生参加型のPR展開を発展させた。</p> <p>④新カリキュラム検討チームを学科内に発足し、H29年度からの新たなカリキュラム検討に着手した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①FD研修については、学科内の取り組みを活性化させることを目指したい。</p> <p>②教授会等、学部中心の大学運営の改革に連動した学科の組織運営を心がけ、学部・全学の活動にも寄与することを継続する。</p>			
その他	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①平成28年度入試において、入学手続き者が141名と昨年に比して、33名増加した。</p> <p>②1名の教員が自己都合退職をし、後任人事となる教員募集を実施したが適任者がおらず、採用見送りとなった。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①平成29年度入試に向けて収容定員確保を目指し、特にオープンキャンパス等の学科広報に全力を注ぎたい。</p> <p>②学科の全般的な活動において、大学全体の方針や運営に即しつつ、効率化・適正化を検証し、機動的且つ柔軟な学科運営を目指したい。</p> <p>③平成28年度は2名の定年退職者がいるが、昨年度採用が叶わなかった1名を含め、3名の後任人事等において、適正な学科構成員の確保を目指したい。</p> <p>④学科の全般的な運営について、より透明性が高く全構成員が課題を共有し共働できる体制を促進・継続したい。</p>			

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価		学科用評価シート	組織名称 (評価单位名称)	メディア表現学科
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入			
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 少人数制 (学生10人に対し教師1人) でのベーシックセミナーを実施、引き続ききめ細かに新入生の教育に当たった。 ② 学科主催で学生向けシンポジウム『デザインにおける創作活動と著作権』を外部パネリストを招聘し開催した。 ③ インターシップの会を継承実施するとともに、昨年同様成果報告書をまとめ、関係者に送付した。 ④ 昨年に続き「卒業研究審査会」、「卒業研究再審査会」、「卒業研究優秀者発表会」を開催、卒業論文・制作の質的向上に努めた。 ⑤ 昨年同様、秋学期に学科教員全員による「メディア表現概論」を設置、1年生必修科目としてメディアの多角的な理解を促した。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 情報系の教師 (専任、非常勤) が不足しているため、早急に補充する必要がある。 ② 昨年に引き続き、学生たちに社会学的学術論文の書き方を教え、卒論の質を高めていくことが必須である。 			
研究	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 学科教員による研究・海外調査などが活発に行われた。 ② インターンシップ関連で活発な研究活動が継続されつつある。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ① メディア表現学科をメディア研究の拠点にして、社会で広く認知・評価されるように活動していくこと。 ② 研究時間を十分に確保できないのが現状であり、今後改善していく必要がある。 			
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 教員が保護者に連携して、登校低迷学生と保護者との特別面談を設け、学生の現状について保護者の理解と協力を促した。 ② A0入試と推薦入試合格者を集め、フォローアップセミナーを開催、学生の学習意欲向上に努めた。 ③ 1泊2日のフレッシュマンセミナーを幕張で開催、学生たちによるプロジェクトのプレゼンテーションを開催。 ④ ゼミでフリーペーパーを制作し、「日本タウン誌・フリーペーパー大賞2015」に応募、また学生のフリーペーパー祭典「SFF」にも出典した。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 就職内定率が約90%以上に達しているが、さらに内定率を上げるよう努めたい。 ② 登校低迷学生に迅速に対応し、退学・休学者の減少に努力したい。 ③ 特別な障害を持っている学生への適切な対応を考え、実施していく。 			
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 新井薬師など本学周辺の商店街などを『目白大学新聞』などで特集し、地域振興に貢献した。 ③ 地域の社会福祉法人の役員を務め、地域の福祉向上に一定の貢献をした。 ④ 外部組織からの依頼により専門地域のアドバイスや講演をし、地域・教育機関の教育的・文化的環境作りに寄与した。 ⑤ 落合南長崎駅東側にある「トキワ荘通り協働プロジェクト」に参加した。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ① メディアを専門とする学科として、地域のメディア促進にさらに貢献していきたい。 ② 学生のボランティア活動を支援し、できればインターンシップ同様、ある条件をクリアした場合は単位を認定するなどしていきたい。 			
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 「学びフェスタ」で学科の全教員が模擬授業を行い、学科の広報に貢献した。 ③ 学科の健全存続のため、入学者が予想される高校に向けた学科独自広報に努め、その結果、志願者増に繋がった。 ④ 学部での連携業務として非常勤講師の会を開催した。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 学部・学科の独自の広報予算が削減されたため、パンフや小冊子をつくるのが困難になったが、何らかの対応策を立てる必要があると考える。 ② 学生数だけでなく、質の高い学生の確保に努めていきたい。やはり質の高い学生を確保し、教育する課程でさらに質を高めた。そのことが社会的評価に繋がり、引いては入学者増にも関係してくるだろう。 			
その他	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 『目白大学新聞』を年2回発行、保護者に発送した。昨年度から発行得母体が社会学部となり、中期計画目標の一環となった。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 『目白大学新聞』を今後とも大学をアピールするツールとして有効活用していきたい。また、地域連携のツールとしても、同新聞とフリーペーパーをさらに進化させていきたい。 ② 学科オリジナルサイトの充実・拡散をさらに目指して行きたい。 <p>(以上)</p>			

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価		学科用評価シート	組織名称（評価单位名称）	地域社会学科
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入			
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①様々な専門分野を有する教員で構成されている地域社会学科では、各教員がそれぞれの専門分野における豊富な知識を活かしながら、多種多様な授業を展開した。</p> <p>②地域社会学科の特徴の一つであるフィールドワークに関しては、教員がゼミやフィールドワークの授業、あるいはゼミ合宿等で学生と一緒に各地に赴き、現地調査や資料の収集に当たり、学生たちに現場に足を運んで実際に「目で見て、調べる」ことの大切さを教えた。</p> <p>③授業時に、配布プリントやパワーポイント・スライド、映像資料が活用されて、学生の興味・関心が引き出されるとともに、グループワークやディベートなどの手法も取り入れられて、学生の主体的な学びが活性化された。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①学習意欲や集中力に欠ける学生に対して、学問への興味・関心を高め、真理を探究したいという知識欲や学習意欲を喚起することが、引き続き重要な課題となって横たわっている。</p> <p>②授業中に一部の学生が居眠りをしている授業風景を改善することが、やはり望まれているようである。</p>			
研究	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①教員各自が専門分野の研究テーマを追求するため、国内外を問わず積極的に現地に足を運んで資料収集や調査研究に携わるとともに、関連文献や資料の読解、学術論文の執筆に取り組んだ。</p> <p>②学科教員が、文化庁から「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業に係わる協力者」に任命されて、全国の博物館事業の支援補助に関する調査を実施した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>○教員それぞれが過度の学内業務に追われることなく、一定程度のまとまった研究時間が確保されるなかで、自らの研究テーマに取り組むことができるよう、環境整備の改善が切に望まれている。</p>			
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①就職活動において大きな影響を及ぼすと言われているコミュニケーション能力を養成するため、ゼミの授業で新聞を積極的に活用したところ、近年はゼミ生全員が早期に内定を取得しているという顕著な成果が上がっている。</p> <p>②キャリアデザインやゼミなどの授業時、個別面談、フォローアップセミナー等で、学生たちを前にして、生活習慣の大切さや大人としてのマナーの遵守、社会学部の学生としての自覚に関して、積極的に啓発している。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①留年生の数は減少しているとはいえ、依然として進路変更や家庭の事情、勉学意欲の喪失、健康上の理由などにより退学者が一定程度出ているため、学生との個別面談の実施を始めとして早急に対応策を講じる必要がある。</p> <p>②通学路における喫煙や大声での会話、道幅一杯の横並び歩行等に見られるように、近隣住民に迷惑を掛けるようなマナー違反に対しては、その都度当該学生に注意を促すことが必要であろう。</p>			
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①地域社会学科主催「第8回 地域フォーラム：若者の政治参加と日本の未来を考えるー若者たちに問う！なぜあなたは投票しないのか？ー」（平成28年1月24日）において、かつて防衛政務官を務めたことのある方を講師として招き、日本の現代政治や投票行動について特別講演会を実施した。</p> <p>②落合・中井地域のイベント「染の小道2015」及びフォトコンテストの企画・運営に、地域社会学科の教員や学生たちが積極的に携わり、地域連携に大きく貢献した。</p> <p>③平成27年度も埼玉県戸田市と地域社会学科との間で「共同研究」が行われるとともに、秋学期には大学で戸田市寄附講座「地域政策の開発」が開講され、地方行政の生の声を耳にした受講者の間で好評を博した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①「地域フォーラム」に参加した学生たちから、有意義な質問があまり出なかったことや活発な議論が展開されなかったことが少し残念であった。</p> <p>②学科が取り組む各種の地域連携事業に、学生がもっと前向きに参加するように促す工夫が必要である。</p>			
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①地域社会学科の1年間の活動報告書として、<Mejiro Community Studies Vol. 7>というパンフレットが刊行された。このパンフレットの中では、学科教員紹介、各ゼミ一覧表、ゼミ活動の様子、卒業研究課題一覧表、授業最前線ルポ「地域の現場から学ぶ、ヒトから学ぶ」等が掲載されており、オープンキャンパスで受験生や保護者の方々に配布されて、本学科の広報活動や対外的アピールに大いに役に立った。</p> <p>②平成27年度も、保護者会を2回実施（平成27年7月と平成28年1月）して、学科近況報告や進路関係報告、個別相談等を行った。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①フレッシュマンセミナーが平成27年5月14～15日の日程で、初めて宿泊を伴うことなく実施された。初日は浅草周辺の巡検、その翌日は新宿キャンパスでの報告会が行われたが、今後はさらにフレッシュマンセミナーのあり方が検討される必要があるように思われる。</p> <p>②近年における新たな各種ワーキンググループの立ち上げを始め、増加傾向にある学内業務を前にして、教員の役割分担や負担の軽減、ストレス社会における教員の心身共にわたるケアや静養、研究時間のより一層の確保等について、今後はさらに何らかの対応策が必要のように思われる。</p>			
その他	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①平成27年度の卒業生の中から、2名の学生が総合職として地方公務員の試験に合格したことは、大変嬉しいことであった。1名は東京都西東京市、もう1名は埼玉県戸田市において、平成28年4月より職務に就いて一生懸命頑張っているとのことである。</p> <p>②オープンキャンパスの時、学生たちが地域社会学科のブース「地域カフェ」で、来校する受験生や保護者の方々に対して、懇切丁寧に学科の特色や授業内容、ゼミの様子、学生生活等について説明して、学科の紹介や広報活動に尽力してくれたことは、とてもありがたく、感謝の気持ち一杯である。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①平成27年春学期に再度、学科名称の変更に取り組んだが、結果はうまくいかなかった。今後は、学部・学科の改組・改編に向けて、何らかの対応が求められている。</p> <p>②平成27年度の入学者数は89名であったが、そのうち一般入試の合格者数が減少しており、定員確保に関しては、引き続き厳しい状況である。</p> <p>③全入時代の大学で求められる教員に必要なものは、必ずしも研究業績だけではなく、多様な学生を柔軟に、かつ適切に社会へ送り出すことができる教育力であり、多難な大学運営をマネジメントできる事務能力であるかも知れない。この点を直視した人材採用・登用が、今日では望まれているようである。</p>			

(1) 特筆すべき事項

教授3名（企業経営者2名、JAXA1名）を採用することが出来たので、実務教育、理論教育を充実することが出来た。

(2) 今後の課題

学生が卒業後に社会で活躍できるような資格を取得させるよう努力する必要がある。
特に簿記とITパスポートが当面の課題である。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	学科用評価シート	組織名称（評価単位名称）	経営学部 経営学科
--------------------------	----------	--------------	-----------

項目	自己評価 ※箇条書きにて記入
教育	<p>(1) 特筆すべき事項 1) H28年度4月からのカリキュラム変更を行なった。 特に、従来の「会計学概論I, II」を「アカウントティングI, II」とし、能力別に2クラス制を始めることとした。 「現代マネジメントI~IV」を新設し、本学科の新たな特徴とすることとした。 2) 学科内の報奨金制度2年目を迎え、在学生の資格に対する意欲が高まった。</p> <p>(2) 今後の課題 1) カリキュラムの移行にあたり、2015年度入学生以前のいわゆる「旧カリ生」と「新カリ生」が共存する3年間について注意を払う。 2) 大学全体の報奨金との「住み分け」を明確にする必要がある。また、さらなる学生への意欲づけが必要となる。</p>
研究	<p>(1) 特筆すべき事項 科研費への応募教員が4名となり、ここ数年間で遡増状態にある。</p> <p>(2) 今後の課題 科研費に限らず、競争的外部研究資金の獲得に向けて、各教員が努力する必要がある。</p>
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項 本学部本学科の開学部（2002年）当時に比べ、学生の授業に対する態度、問題行動、さらに退学率ともにすべてが改善状況にある。 しかし、まだ退学率は高く（入学者が4年間に退学する率が約15%。但し、開学部当時は33%）、さらなる指導が必要となろう。</p> <p>(2) 今後の課題 1年次のベーシックセミナー、2年次のキャリアデザイン、3,4年次のゼミを通して、より学生の傾向把握、また進路指導に教員としての努力が必要となろう。</p>
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項 地域連携・研究支援センターが立ち上がり、その中で、地域の信用金庫との包括連携がスタートする運びとなった。 経営学科としても、協力することとなろう。</p> <p>(2) 今後の課題 前述の連携について、地域が本学本学科に何を期待するのかを確認したうえで、その方針に協力していくべきであろう。</p>
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項 新年度（2016年度）に3名の新教員を迎えることが決定した。特に本学科の問題点とされていた、経営学プロパーの教員が複数含まれている点があげられる。</p> <p>(2) 今後の課題 新カリキュラムから見た場合、本来、専任教員が担当すべきと考えられる科目（複数）が、非常勤講師に頼らざるを得ない状況がある。 その状況をふまえた教員公募が必要となろう。</p>
その他	<p>(1) 特筆すべき事項 本学部本学科の入試戦略について、「A0・推薦より、一般・センター重視」の本学科の施策は、人数確保の点では、堅調に推移しているといえよう。</p> <p>(2) 今後の課題 18歳人口の減少に対応して、上記の施策がこの先数年においても継続すべきか、あらたな戦略を打ち立てるべきかは慎重な検討が必要となろう。</p>

(1) 特筆すべき事項

【教育】特筆すべき活動事例として、①「グローバルナレッジシリーズ」という連続講義を新規に開設し、現役社会人のゲストスピーカーを招聘して学生に実社会を知る機会を提供したこと（平成27年度は11回開催）、②英米語学科のセメスター留学(Power English)の対象校を新規に2校増やしたこと（イギリスのカンタベリークライストチャーチ大学と、アイルランドのダブリンシティ大学）、③韓国語学科において、平成27年度も2年次生の全員が留学することを原則とする交換留学制度と、二重学位(D. D.)制度が維持・実施されたこと、④日本語・日本語教育学科において、さまざまな日本語学習支援活動や日本語教育実習の準備等の活動が行われたこと、⑤中国語学科において、通訳案内士試験の受験奨励策として、授業内で「通訳ガイド実習」を実施したこと（横浜中華街での実習）、⑥学部長裁量経費による各種検定試験の受験料補助を実施したこと、などが挙げられる。

【研究】特筆すべき活動事例として、①中国語学科と「中国語教育学会」の共催による「中国語教育学会第6回研究会」の開催（於、目白大学、平成28年1月23日）、②新たなPh. D. 取得者の出現（韓国語学科の助手がソウル大学から取得、東アジア学会徳島賞と鶴峰奨学財団最優秀論文賞も受賞）、③国際的な学会誌等への論文掲載（英米語学科、日本語・日本語教育学科）、④国内の全国学会誌等への論文掲載（英米語学科、日本語・日本語教育学科）、⑤著書3冊の出版（英米語学科）、⑥国際的な学会等での研究発表（英米語学科、中国語学科、日本語・日本語教育学科）、などが挙げられる。

【学生指導】特筆すべき活動事例として、①学習意欲の喪失や生活上の困難などの問題を抱えた学生に対して、各学科で、学科長を中心に、ベーシックセミナー担当教員、クラス担任、ゼミ担当教員等が相互に連携しながら、きめ細かい支援を行ったこと、②中国語学科では1年次からキャリア教育を重視し進路指導に注力しているが、その結果、3年連続で4年次生の就職内定率100%を維持したこと、③新宿図書館主催の「第13回読書推進プログラム」において、中国語学科の学生が1等と2等に入賞したこと、④韓国語学科において、学科独自のスポーツ大会、新入生歓迎会を実施したこと、⑤同じく韓国語学科において、学生の学習支援組織「SINNARA」を新規に立ち上げたこと、⑥日本語・日本語教育学科において、3年次生が4年次生を招き「先輩を囲む会」を開催、進学・就職・帰国・インターンシップ・教職等の話を4年次生から聴く機会を設けたこと、などが挙げられる。

【社会貢献】特筆すべき活動事例として、①英米語学科の教員がNHKラジオ番組「入門ビジネス英語」の講師を務めたこと、②中国語学科の教員が、公益法人「松下幸之助記念財団」主催による「松下幸之助国際スカラシップフォーラム」（於、東京大学）の実行委員として、フォーラム登壇者の選考やフォーラム全体の運営に携わったほか、当財団が支援する「ブックレット〈アジアを学ぼう〉」シリーズ（風響社）出版事業において、若手執筆者に対する継続的な育成支援を行ったこと、③同じ中国語学科の教員が、NPO「中国山地の人々と交流する会」の諸活動の一環として、中国山地住民に対する継続的な教育活動支援を行ったこと、④韓国語学科において、新大久保映画祭と協力して、学生が映画字幕を付けて教員が監修し、韓国の映画監督・俳優を招いて「韓国語学科映画祭」を開催したこと、⑤日本語・日本語教育学科において、NPO子どもLAMP (Language Acquisition & Maintenance Project)に学生を送り、外国人の子どもの母語・日本語・教科学習の支援を行ったこと、などが挙げられる。

【組織マネジメント】平成26年度から学部別教授会が置かれるようになったことに伴い、同年4月に本学部教授会の下に外国語学部人事委員会を設置し、「外国語学部人事委員会の設置について」という内規を定めたが、これがモデルとなって、平成28年4月から、岩槻キャンパスも含め本学のすべての学部「予備選考委員会」が設けられ、人事の「内規」も定められることになった。

(2) 今後の課題

【教育】①平成28年度中に、言語・文化分野の達成すべき学修成果（専門基礎力）の内容について結論を出し、かつ、この目標の達成に向けた専門教育のカリキュラムの在り方について検討を開始する。②FD活動がルーチン化しないように、企画の内容を更新し、具体的な改善に結びつける。

【研究】①科学研究費補助金への申請率を上げる必要がある。②国際誌や全国レベルの学会誌等への論文投稿数を増やしていく必要がある。

【学生指導】①問題を抱えた学生に対する組織的な指導体制の充実・強化を図っていく必要がある。②就職支援体制の更なる充実・強化を図っていく必要がある。③日本語・日本語教育学科において、日本語教育能力の育成を見据えたカリキュラムを整備する必要がある。また、実習先の確保や、実習システムの開発も課題となっている。

【組織マネジメント】①各学科内の予備審査委員会や本学部の予備選考委員会の審査をなお一層透明で公正なものとしていくために、今後も全力を尽くしていく必要がある。②中国語学科における恒常的な定員割れを一刻も早く解消できるようにするために、学部として協力できることがあれば是非協力していきたい。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価		学科用評価シート	組織名称（評価单位名称）	英米語学科
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入			
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①1学期間のセメスター留学（Power English）の対象校をさらに増やすべく、イギリスのカンタベリークライストチャーチ大学、アイルランドのダブリンシティ大学を加え、2年間で2倍となった（平成25年度：3カ国4校→平成27年度末現在：6カ国8校）。</p> <p>②外国語学部としての「グローバルナレッジシリーズ」を立ち上げ、現役社会人のゲストスピーカーを招聘し、学生に実社会を知る機会を提供した平成27年度開催実績（計11回）。</p> <p>③4年間の学習成果を把握すべく、4年次のTOEIC団体受験を導入した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①学位授与の方針（育成すべき人材像、獲得すべき知識・能力等の付加価値、達成すべき教育目標など）を明確化する必要</p>			
研究	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①国際学会誌への論文掲載が4件、及び国際学会での研究発表も3件あった。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①科学研究費補助金への申請率を上げる必要がある。</p> <p>②全国レベルの学会誌等への投稿数（掲載数）を増やす必要がある。</p>			
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①クラス担任制度、ベーシックセミナー、ゼミ指導、コア・プログラム等を通じてきめ細かい指導を実施している。</p> <p>②就活については、ゼミの枠を超えて指導を行い、上場会社への内定に結びついた他、下級生が就職体験談を聞く機会を設けた。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①学科長、クラス担任教員、ベーシックセミナー担当教員、ゼミ指導教員等の緊密な連携による組織的な指導体制を確立する必要がある。</p>			
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>平成27年度NHKラジオ「入門ビジネス英語」講師を務めた教員がいる（平成28年度も継続中）。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>英語および英語圏の文化・社会の分野につき、社会に貢献することを検討したい。</p>			
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①「英米語学科教員会議の運営に関する内規」を独自に作成し、これに基づいて透明かつ民主的な運営を心がけるようにしている。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①透明で公正な人事を行うことを通して、学科教員組織のさらなる質の向上を図っていく必要がある。</p>			
その他	<p>(2) 今後の課題</p> <p>①平成30年度を見据えた基礎教育の全面的見直しを機会に、専門科目においても学生側の要望や実態に適切に配慮したカリキュラムを作成するよう努力する必要がある。</p>			

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価		学科用評価シート	組織名称（評価単位名称）	中国語学科
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入			
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①社会の第一線で活躍する方々を講師に迎えておこなう特別講座「グローバルナレッジシリーズ」（全11回）を、4学科合同で企画・実施した。</p> <p>②通訳案内士試験の受験督励策として、授業内で「通訳ガイド実習」を実施した（横浜中華街での実習）。</p> <p>③ベーシックセミナーおよびキャリアデザインの授業において、日本語・日本語教育学科との合同授業を実施した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①中国語検定試験および通訳案内士試験の合格率向上のための指導を強化する必要がある。</p> <p>②卒業研究（卒業論文と卒業制作）の質的向上のための指導を充実させる必要がある。</p>			
研究	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①学科教員の研究論文掲載数は7件、学会発表は2件であった。</p> <p>②中国語学科と「中国語教育学会」の共催による「中国語教育学会第6回研究会」を目白大学で開催し（平成28年1月23日）、中国語学科の教員1名も発表をおこなった。</p> <p>③「目白大学台湾研修」（3月13日～20日）の交流活動の一環として、学科教員が台湾・康寧大学で講演をおこなった。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①所属学科や専門領域の枠を越えた、学際的かつ横断的な学内の共同研究事業立ち上げのための方策を模索する必要がある。</p> <p>②個々人の研究の質的向上をはかるためにも、科学研究費補助金への申請率を上げる必要がある。</p>			
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①1年生からキャリア教育を重視し、進路指導に注力した結果、3年連続で4年生の就職内定率100%を達成した。</p> <p>②目白大学新宿図書館主催「第13回読書推進プログラム」において、本学科学生が1等と2等に入賞した。</p> <p>③本学科4年生が、平成27年度床次徳二記念賞を受賞した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①好調な就職内定率を維持するためにも、きめ細やかな進路指導を継続する必要がある。</p> <p>②学習意欲喪失による長期欠席者については、これまで以上に忍耐強くサポートを継続する必要がある。</p>			
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①所属教員が、公益法人「松下幸之助記念財団」主催による「松下幸之助国際スカラシップフォーラム」（於・東京大学）の実行委員として、フォーラム登壇者の選考やフォーラム全体の運営に携わったほか、当財団が支援する「ブックレット<アジアを学ぼう>」シリーズ（風響社）出版事業において、若手執筆者に対する継続的な育成支援をおこなった。</p> <p>②所属教員が、NPO「中国山地の人々と交流する会」の諸活動の一環として、中国山地住民に対する継続的な教育活動支援をおこなった。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①学生と教員が共に参加・体験できるような地域ボランティア活動の展開を模索する必要がある。</p> <p>②自身の研究および教育活動における成果を、より積極的に社会に還元しようとする姿勢が、教員各人に求められる。</p>			
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①学科教員同士の連携がスムーズで、学科内の教育活動も円滑におこなわれている。</p> <p>②人事面では、有期教員の無期雇用への転換が、民主的かつ透明性の高い手続きを経て実施された。</p> <p>③恒常的な定員割れが続いているものの、今年度の入試では受験者が昨年より増加し、新年度入学者数において定員の7割を確保することができた。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①定員割れ問題は、少しずつ状況は改善されつつある。今度も学科教員が強い危機意識をもち、定員確保にむけて尽力する必要がある。</p>			
その他				

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価		学科用評価シート	組織名称(評価単位名称)	韓国語学科
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入			
教育	<p>(1)特筆すべき事項</p> <p>①入学定員60名(平成27年度入学者74名)、在籍学生280名を超える、韓国語学科として日本最大規模の教育組織が維持されている。</p> <p>②1年次学生対象の学科専門科目の韓国語基礎教育科目群(会話・作文・聴解・文法)は、平成27年度もすべて韓国ネイティブ教員が担当した。③平成27年度も2年次学生原則「全員交換留学」の制度が維持され、「二重学位(D.D.)制度」も交換留学20名の枠が維持された。</p> <p>④平成27年度も2・3年次の留学学生に対する遠隔教育が行われ、2年次はベーシックセミナー担当教員が、3年次はゼミ担当教員が教育を担った。</p> <p>⑤平成27年度も3・4年次のゼミ授業は韓国語韓国文化に関する専門教育の教員が担当して手厚い教育をした。</p> <p>⑥平成27年度も4年次学生は全員卒業研究(卒業論文・卒業制作)を履修し、教員は韓国語韓国文化の専門分野の研究指導教育を行なった。</p> <p>⑦平成27年度も課外活動を重視した学科教育を展開した。</p> <p>(2)今後の課題</p> <p>① 留学教育の諸制度を維持する。</p> <p>② 教育に関する教員の業務過多を軽減する。</p>			
研究	<p>(1)特筆すべき事項</p> <p>①学科教員による著述・翻訳・テキストなどが出版された。</p> <p>②学科教員は研究論文、研究報告を紀要等に発表した。</p> <p>③学科専門科目担当教員は全員「日本韓国語教育学会」の役員を務めるなど、学会活動を積極的に展開しながら研究した。</p> <p>④韓国語基礎教育に関する共同研究など韓国語教育にかかわる研究報告が『高等教育研究』に掲載された。</p> <p>⑤科研費および特別研究費を申請しつつ、韓国国外における韓国語韓国文化教育の共同研究を進めた。</p> <p>⑥海外で研究発表や講演を行う教員が半数以上を占めた。</p> <p>(2)今後の課題</p> <p>①研究できる十分な時間を確保することができるように、業務の在り方を検討する。</p> <p>②外部資金の導入、学科テキストの出版を進めたい。</p>			
学生指導	<p>(1)特筆すべき事項</p> <p>①学科学生原則全員交換留学を前提として、学生も参加する「留学保護者対象説明会」を年2回開催して、留学の安全に関する学生指導を行なった。</p> <p>②学科1年次生全員による学園祭「桐和祭」参加を実施し、人間関係構築、協力の経験などの学生指導をした。</p> <p>③学科独自のスポーツ大会、新入生歓迎会を実施し、学科学生の学年を超えた縦のつながりを持たせるよう、学生指導をした。</p> <p>④交換留学生に対する視察を行い、留学現地学生指導を実施した。</p> <p>⑤フレッシュマンセミナーにおいて、人間関係構築、コンピテンシー能力育成を主眼とする、学科独自プログラムを導入した。</p> <p>⑥学生の学習支援組織「SINNARA」を立ち上げ、教員は諮問役として学生指導した。</p> <p>(2)今後の課題</p> <p>①学生指導に関する業務過多を軽減したい。</p> <p>②学生の主体的活動を指導・助言したい。</p>			
社会貢献	<p>(1)特筆すべき事項</p> <p>①学科専門科目担当教員は「日本韓国語教育学会」役員を務め、社会貢献を深めた。</p> <p>②新大久保映画祭とコラボレーションして、学生が映画字幕を付け教員が監修し、韓国の映画監督・俳優を招いて「韓国語学科映画祭」を開催した。</p> <p>③教職免許更新講座で韓国語講座を担当した教員があった。</p> <p>④韓国語教育を行う教員に対する、韓国語教育方法に関する講演をした教員があった。</p> <p>⑤韓国語スピーチコンテストで審査員を務めた教員があった。</p> <p>⑥海外で講演を行う教員が複数あった。</p> <p>⑦JTB、三進トラベル、アーエデュケーション、富士火災、TEなど、留学・観光にかかわる企業・団体と学科教育とを連携させた。</p> <p>(2)今後の課題</p> <p>①社会貢献ができるよう業務過多を軽減したい。</p> <p>②学科映画祭が定着するよう、引き続き新大久保商店街連合会などと協力したい。</p>			
組織マネジメント	<p>(1)特筆すべき事項</p> <p>①大学の方針を確認しながら、学科専任教員の在り方を検討し改善しなければならない。</p> <p>②大学の方針を確認しながら、学科有期教員の在り方を検討しなければならない。</p> <p>③学科専門科目担当教員1名が担任する平均学生数が多い(1教員あたり平均、1年ベーシックセミナー担任18名、2年ベーシックセミナー担任18名、3年次ゼミ担任14名、4年次ゼミ担任15名、計65名担任すること、1教員の担当授業コマ数平均8コマが、常態化しており、学科教員の業務負担を改善しなければならない。</p> <p>④学科専門科目を担当しない教員が学科教育の根幹にかかわる行動を学科外で学科教員として行うことを解消しなければならない。</p> <p>(2)今後の課題</p> <p>①本項、上記「特筆すべき事項」は、「課題」そのものであることを認識する。</p> <p>②出産・子育てに伴う「休職」教員、ゼミを担当しない教員が、学科教員の人数に数えられることを解消したい。</p>			
その他	<p>(1)特筆すべき事項</p> <p>①学科入試倍率3倍が維持された。</p> <p>②就職希望者の学科就職率90パーセント越えが維持された。</p> <p>(2)今後の課題</p> <p>①学科入試の推移には慎重に対応して行きたい。</p> <p>②就職希望者に対する就職支援を強化して行きたい。</p>			

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価	学科用評価シート	組織名称（評価単位名称）	日本語・日本語教育学科
---------------------------	----------	--------------	-------------

項目	自己評価 ※箇条書きにて記入
教育	<p>(1)特筆すべき事項 ①日本学生支援機構(東京日本語教育センター)のサウジアラビア人留学生を対象に、学生が日本語支援ができるように企画・指導した。②ゼミ生がSPISチャレンジ企画に応募し(題目「外国人児童生徒と日中韓の昔遊びで交流する」)、企画の準備と実施ができるように指導した。③ネパール人学校「エベレストインターナショナルスクール」における日本語学習支援の指導を行った。④オーストラリア・ニュージーランドにおける日本語教師アシスタントプログラムに派遣する学生に対する説明会、募集、選考、指導を行った。⑤日本語学校(KAI日本語スクール JET日本語学校)との学生交流、および現地での授業サポート、チュータリングを開始した。⑥台湾研修(康寧大学)の日本語教育実習の準備・企画・指導を行った。</p> <p>(2)今後の課題 ①様々な活動を実施するだけでなく、実践後に力量が身につくようなデザインを検討する必要がある。②日本語教育実習について日本語教育センター(JALP)、日本語学校、ボランティア日本語教室、国内外の大学等と連携し、理論と実践の両輪を往来できる実習プログラムが必要である。</p>
研究	<p>(1)特筆すべき事項 ・「協働型の教師研修・教員養成」『日本学研究叢書 日語教学の研究 第9巻』,pp.555-575,外語教学与研究出版社:北京,2016 ・「科研費基盤C採択 課題「成人学習論に基づく「アジアの日本語教師研修システム」の構築」(課題番号15K02649) ・「SPISチャレンジ制度を活用したゼミの学び」『人と教育』第10号,寄稿論文,2016 ・「目白大学の学生における資格取得状況、及び資格に対する意識についての調査—日本漢字能力検定、日本語検定、国際コミュニケーション英語能力テストTOEIC、マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)を対象として」『目白大学総合科学研究』第12号,寄稿論文,2016 ・「An Alternative Constructionist Approach to Intercultural Communication:A Discussion from the Perspective of Ba.」『目白大学人文学研究』第12,2016 ・「大国朱伝承の一考察」『目白大学人文学研究』第12号,2016 ・「成人学習論に基づくラウンドテーブル型教師研修における運営者の学び」日本語教育学会春季大会研究発表, 武蔵野大学,2016.5 ・「教師の成長プロセスを支えるラウンドテーブル型教師研修におけるファシリテーターの学び」日本語教育学会発表, 沖縄国際大学,2016,10</p> <p>(2)今後の課題・紀要や報告書に留まるのではなく、学術論文及び科研費等の件数を増加させること。</p>
学生指導	<p>(1)特筆すべき事項 「先輩を困む会」を開催した。3年生にとっては、先輩たちの進学、就職(企業)、帰国、インターンシップ、教職等に至るまでのプロセスを聴くことで実態を知る機会となった。4年生にとっては、自分たちの就職活動や進学対策を伝える機会となった。</p> <p>(2)今後の課題 日本語教育能力全体を見据えたカリキュラムの整備が必要である。また、日本語教師を目指す学生に対しては、教師養成の観点から、教育実習のカリキュラムの組み入れも必要であると考え。本学日本語教育センター・留学生別科、国内外の日本語学校、高校、大学、ボランティア教室等と連携し、実習先の確保、実習システムの開発が望まれる。</p>
社会貢献	<p>(1)特筆すべき事項 ・市民活動の団体から指導を依頼され、月1回公民館にて「古典の会」を主宰。 ・朝日新聞から年中行事コラム(民俗)について相談と指導を行っている。 ・NPO子どもLAMP(Language Acquisition & Maintenance Project)に学生を送り、外国人の子どもの母語・日本語・教科学習の支援を行っている</p>
組織マネジメント	
その他	<p>(1)特筆すべき事項 科研費を内包するプロジェクトの一環として、「学びを培う教師コミュニティ研究会」を発足した。年に3回(国内2回、海外(1回)ラウンドテーブル型教師研修を実施した。</p>

(1) 特筆すべき事項

3学科の独自性を尊重しつつ、学科間で共通理解と情報共有を図るために、定例の学部長・学科長会議、実習教育委員会、国家試験・就職対策委員会等を開催し、学部として協働活動を推進した。平成27年度の主な活動は以下の通り。

1. 学部教育について①退学者・休学者防止策を実施し、退学者の減少を目指した。退学率（平成25年～平成27年度入学者）はPT学科7.4%、OT学科6.7%、ST学科19.3%であり、ST学科が岩槻キャンパス全体平均8.0%を大きく上回った。PT・OT学科では4年生の退学が、ST学科では3年生の退学率が高いことが特徴であり、この部分への重点的な対策が課題として残った。②学生の負担軽減と大学・実習施設間の連携を密にすることを目的に、実習施設の関東地方への集約化の努力を継続した。また各学科とも円滑な学外実習実施のために、客観的臨床能力試験（OSCE）を実施した。評価者には外部の実習指導者を招聘したが、年々卒業生の占める比率が高くなってきている。③チーム医療演習を学部として実施し、講師には学部内だけでなく、看護学部や外部講師も招聘した。学生によるアンケート結果では、それぞれの専門職種間のアイデンティティーの違いとともに連携協働作業の重要性を認識できてよかった、との評価が多数を占めた。④アクティブラーニング方式の授業への転換を推進した。

2. 学生数確保策各学科の入学者数はPT学科97名（80）、OT学科68名（60）、ST学科38名（40）と学部目標獲得数224名に対し、203名と目標を下回った（）内は募集定員。特にST学科における定員割れが影響した。今年度の実績を分析し、各学科で入学者確保策を策定し、次年度に反映させる必要がある。3. 国家試験および就職に関する対策①国家試験対策委員会を年間5回開催し、情報交換を密にした。各学科の新卒における結果はPT学科87.3%（82.0%）、OT学科92.7%（94.1%）、ST学科77.3%（82.0%）であった（）内は新卒全国平均。PT学科以外は全国の新卒平均を下回る残念な結果となった。要因を分析し、次年度の対策に反映する必要がある。②就職率は各学科とも100%であった。4. 研究について①文部科学省科学研究費助成金獲得者が、PT学科1名、OT学科4名、ST学科1名であった。論文数はPT学科29件（うち海外4件）、OT学科9件（うち海外6件）、ST学科8件であった（論文数は学会誌のみをカウント）。その他各学科とも学会発表等多くの研究実績があった。5. 社会貢献①目白大学耳科学研究所における耳鼻咽喉科診療、特にPT学科とのコラボによる難治性めまい診療は国内でも高い評価であった。②特別支援教育、障害者スポーツ事業、地域連携協働事業等、様々な形で地域貢献を実施した。

(2) 今後の課題

① 医療系学部における教養教育の在り方を、大学全体との整合性を保ちながら検討すること、②受験生の増加策と学生数確保、③国家試験合格率の向上、④科研費等外部資金の獲得、⑤地域貢献へのさらなる努力、⑥退学者防止策の検討

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価		学科用評価シート	組織名称（評価単位名称）	理学療法学科
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入			
教育	<p>(1)特筆すべき事項</p> <p>①週1回の学科会議で成績不良や実習の状況などの学生情報を学科内で共有し指導に取り組んだ。 ②卒業生を呼び、OSCEを実施して臨床実習の質の向上を進めた。 ③引き続き、基礎ゼミにおいてレポートの書き方を徹底的に指導し、学生のレポート作成能力の改善させた。 ④知識・技術定着のために講義や実技科目において頻回な小テストを実施し、学習習慣の定着を図った。 ⑤一部の授業でPBL方式を導入し、学生の学習態度面に関する成果を得た。</p> <p>(2)今後の課題</p> <p>①平成28年度から予算の関係上、篠原ゼミを実施しないため、佐藤教授による特別講義を検討する。 ②ドロップアウトする学生を検討し、中退の減少を図る。 ③平成27年度国家試験では難易度が上がった。そのため、難易度の高い試験対策を講じる必要がある。</p>			
研究	<p>(1)特筆すべき事項</p> <p>①海外の学術誌に6編が掲載された。 ②国際学会に4演題を発表した。 ③めまいに関する研究を目白大学クリニックを共同で本格的に実施した。 ④学術学会の常任理事などの役職につき、学術活動に貢献した。 ⑤1教員が科研費を獲得した。</p> <p>(2)今後の課題</p> <p>①引き続き、科研費などの外部競争的資金を獲得する。 ②個々の教員だけでなく、チームとしての研究活動を推進する。 ③できるだけ多くの教員が研究活動をするように働きかける。</p>			
学生指導	<p>(1)特筆すべき事項</p> <p>①OSCEなどの臨床実習に向けた講義や実技指導を多く実施した。 ②2年連続県内私立PT養成校5校の中で国試合格率トップだったが、第2位になってしまった。 ③ディスカッションや小テストの導入などのアクティブラーニングを継続して実施した。 ④2年次からゼミナールを導入し、早期からの個別学生指導を実施した。 ⑤3年次秋学期に保護者会を開催し、保護者とともに学生への支援を行った。</p> <p>(2)今後の課題</p> <p>①中途退学を防止する学生指導法方法を検討する。 ②成績不良学生へのさらなる対策を検討する。 ③県内私立PT養成校5校の中で国試合格率トップを奪回するための施策を検討する。</p>			
社会貢献	<p>(1)特筆すべき事項</p> <p>①理学療法士協会などの専門職団体の活動に複数の教員が活躍した。 ②地域の知的障がい児スポーツ事業への参加した。 ③障害児への巡回相談事業を実施した。 ④東京都障がい者総合スポーツセンター医事相談員として活動した。 ⑤複数の市町村における介護予防事業に参加した。</p> <p>(2)今後の課題</p> <p>①さいたま市や岩槻区などの地元自治体との地域連携事業を検討する。 ②臨床実習実施施設との共同事業を検討する。 ③さらにスポーツ関連活動を通して社会的貢献ができないか検討する。</p>			
組織マネジメント	<p>(1)特筆すべき事項</p> <p>①学科内キャリア教育推進プロジェクトを運営し、キャリア教育について検討を加えた。 ②学科内入学前教育推進プロジェクトにて、e-ラーニングを含む入学前教育プログラムを完成させた。 ③学科内オープンキャンパス対策向上プロジェクトを運営し、プログラムについて検討を加えた。 ④学科内学外授業プロジェクトを立ち上げた。 ⑤臨床実習時には、担任・ゼミ担当・実習地担当が多面的に学生をサポートする体制を整えている。</p> <p>(2)今後の課題</p> <p>①学科内キャリア教育推進・オープンキャンパスプロジェクトにおいても具体的改善案を作る。 ②学科内学外授業プロジェクトは立ち上げたばかりなので、運営について検討する。 ③学科内で研究グループを作り、研究の精度を上げたい。</p>			
その他	<p>(1)特筆すべき事項</p> <p>①日本空手道連盟ナショナルチーム強化スタッフとして教員が係った。 ②大宮アルディージャと本学学生とともに地域の知的障がい児スポーツ指導を行った。 ③本学科独自の同窓会組織である目白理学療法士会とともに研修会を開催した。 ④本学科卒業生を招聘し、在学生へのセミナーを実施した。 ⑤3年次OSCEの際に指導者として本学科卒業生を招聘し、在学生と卒業生との連携を促した。</p> <p>(2)今後の課題</p> <p>①さらに本学および本学科のネームバリューを上げるような活動を検討する。 ②目白理学療法士会研修会は1回しか実施できなかったため、今年はさらに多くの研修会を開催したい。 ③本学科卒業生との連携をさらに進めたい。</p>			

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価	学科用評価シート	組織名称（評価単位名称）	作業療法学科
---------------------------	----------	--------------	--------

項目	自己評価 ※箇条書きにて記入
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>① クリニカルクラークシップ方式をすべての臨床実習にて行った。これはわが国の作業療法教育において先駆的な試みである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容を見直し、大学での学びと臨床実習で学ぶべきことを明らかにしたクリニカルクラークシップチェックリストを作成した。 ・ 学生から見た臨床教育者および本学担当教員の実習経験評価の導入を行った。 ・ クリニカルクラークシップ実習に合わせた学生の到達度評価を作成し、そのルーブリックを作成した。 <p>② 27年度作業療法士国家試験成績合格率が目標値90%以上合格を上回ってはいたが、4年制大学の合格率をわずかに下回った。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>① 臨床教育者への指導方法の教育、臨床実習方法および臨床実習にかかわるツール（評価尺度、チェックリスト）のブラッシュアップ。</p> <p>② 国家試験合格率の向上（前年度の分析と早期対策の実施）</p> <p>③ 国家試験合格に効果的なカリキュラムの検討</p>
研究	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>① 外部研究資金 科学研究費助成金 基盤研究C 研究代表者本学作業療法学科教員は4名であった。</p> <p>② 国内外の多くの研究業績があった。（学会誌29件、学会発表92件、内国際学会発表件数18件）</p> <p>③ イノベーションジャパン出展（東京ビックサイト）、彩の国ビジネスアリーナ（埼玉スーパーアリーナ）に出展（うつ病の復職に関する研究、目白大学研究支援グループによる共同出展）</p> <p>④ 三輪書店「作業療法ジャーナル」への連載（クリニカルクラークシップの臨床実習）</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>① 外部資金の獲得によるさらなる研究の充実</p> <p>② 学会誌、学会発表の充実</p>
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>① クラス担任制（1,2学年）とゼミ担任制（3,4年）の両方のシステムが定着し、学生に目が行き届き、退学者はやや減少傾向にある。</p> <p>③ 国家試験合格者の就職率が100%であった。</p> <p>④ 卒業論文履修者が減少傾向（50%以下）にあること。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>① 引き続き成績不良者、休みがちな学生への早期対応をはかり、退学者の減少をはかる。発達障害をもつ学生への臨床実習支援指針の作成を検討する。</p> <p>③ 引き続き、国家試験対策およびキャリア支援を行う。</p> <p>④ 作業療法研究法、卒業論文の履修者の増加</p> <p>⑤ 大学院進学につながる卒業論文指導の実施</p>
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>① 地域との交流事業の計画及び実施</p> <p>② 地域の医療、福祉、保健行政における専門分野での貢献</p> <p>③ 学会及び研究会への貢献</p> <p>④ 研修会の実施（学部長経費：クリニカルクラークシップに基づく作業療法教育研修会の実施）</p> <p>⑤ 地域社会福祉協議会への協力</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>① 作業療法学科が地域社会資源の一つとなるよう個々の地域（岩槻区、さいたま市）との連携活動に有機的なつながりを持たせる。</p>
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>① 本年度は特筆すべきことはみられない。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>① 退職予定教員と若手教員の世代交代</p> <p>② 研究能力、教育能力、マネジメント能力のバランスのとれた教員、教授昇任に相応しい教員の育成</p>
その他	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>① 本年度は特筆すべきことはみられない。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>① 本年度は特筆すべきことはみられない。</p>

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価		学科用評価シート	組織名称（評価单位名称）	言語聴覚学科
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入			
教育	<p>(1)特筆すべき事項 昨年度より、3年次のクリニックでの総合評価演習、4年次の学外施設での臨床実習でより成果を上げることを目的に教育内容の一部見直しを実施した。具体的には、1年次に臨床に必要な基礎的な力を養うべく文章作成、プレゼンテーション能力の向上に寄与するプログラムや、近隣の高齢者施設にご協力いただいた高齢者との継続的な活動を通じたコミュニケーション演習を実施した。また、2年次には、新設した「臨床実習特論Ⅰ・Ⅱ」を開始、臨床実習や卒後の臨床に必要な技能を習得させるべく、特別研究にて作成したDVDを活用した講義と演習、さらに健常高齢者との会話演習などの教育を行った。</p> <p>(2)今後の課題 学力の低い学生を入学させざるを得ない現状の中、国家試験に合格させ、臨床実習を通過できるまでに教育することは非常に困難ではあるが、学科の全教員の力を結集して遂行していかなければならない課題である。まずは、昨年度の国家試験合格率の低下の要因について検討し、早急に立て直しを図る。具体的には、①3年秋学期の教育を見直す。これまで3年秋学期は総合評価演習が学生指導の大半を占めており、この間に学生は臨床場面での演習に気を取られ浮足立ってしまい、学力低下を招いていたと考えられる。したがって、3年秋学期の学力低下を防ぐ手立てを講じる。 ②早い時期からグループでの学習を進め、そこに教員がかかわることで学習方法の指導や学習意欲の向上を図る。マンパワーも限られる中、できるだけ効率の良い取り組みを実施したい。</p>			
研究	<p>(1)特筆すべき事項 ・学科教員4名で特別研究／学術研究プロジェクト助成に応募し、採択された （「科学的根拠に基づく効果的な国家試験対策の構築－言語聴覚士国家試験合格が危ぶまれる学生の早期抽出に焦点を当てて－」）。 ・科研費基盤研究C1件が継続中である。 ・科研費への新たな応募も3件あった。</p> <p>(2)今後の課題 ・科研費への応募、採択率を上げる。 ・学会誌への論文投稿、学会発表をさらに増やしていく。 ・学生に対するより良い教育のために、国家試験対策以外の学科全体の教育的取り組み（初年次教育、言語聴覚療法を学ぶ学生の会話能力向上プログラム）を学術研究として科学的に分析・検討していく必要がある。 ・めまいリハビリテーションの臨床応用を拡大するために、クリニックと理学療法科で検討・実践を進める</p>			
学生指導	<p>(1)特筆すべき事項 ・患者会などへの積極的なかかわりを促し、職業へのモチベーションを高める関わりを実施した。 ・卒業生や地元のシルバー人材を活用したOSCEを実施した。</p> <p>(2)今後の課題 ・中途退学者を減少させる必要がある。そのためには、これまでのような厳しい対応のみでなく、早い段階で言語聴覚士の魅力を伝えていくことや、 勉学に自信をなくしている学生や進路について迷っている学生を想起に見出し、継続を促すかかわりを強化する必要がある。</p>			
社会貢献	<p>(1)特筆すべき事項 ・目白大学耳科学研究所クリニックにて学科教員が教育、研究活動を行いながら臨床に当たっている ・埼玉県内の特別支援教育、関東圏の様々な機会での専門性を活かした講師などを務めている ・休日を利用してNPO法人で学習障害児者の臨床に当たっている</p> <p>(2)今後の課題 ・地域連携においてさらに活動を広げられるか、可能性を探る。</p>			
組織マネジメント	<p>(1)特筆すべき事項 ・これまでと同様、教員は同じ目的意識を持ち、常にコミュニケーションをとりながら教育、学科運営を行った</p> <p>(2)今後の課題 ・学科長交代の年であり、協力体制をさらに強化して、学科が抱える様々な課題をクリアしていく必要がある。 ・現在欠員となっている講師以上、助教各1名の採用に努める。</p>			
その他	<p>(2)今後の課題 ・大学進学者の人口が増えない中、厳しい状況ではあるが、志願者、入学者増への有効な手立てを考え、実践することが課題である。</p>			

《教育》

(1) 特筆すべき事項

- ・大幅な医療制度改革に伴い、看護学教育においても在宅看護学に力を入れる必要があるとの認識に立ち、カリキュラム改正について検討を始めている。が、在宅看護学担当の教員確保が進まないことが弱点である。
- ・教員数の不足を非常勤教員で補充しているが、教育の質確保に努める必要がある。
- ・埼玉県内でも、年々看護系大学が開設されているため、良質な実習施設の確保に努める必要がある。

(2) 今後の課題

- ・医療制度改革に見合うカリキュラム改正が必要である。指定規則改正や他大学の状況も睨みながら、検討を続ける。
- ・実習施設の確保のために、実習施設との連携強化に努める。また、埼玉県看護協会や地域への貢献に努め、実習施設の開拓を図る。

《研究》

(1) 特筆すべき事項

- ・研究的雰囲気の醸成に努め、研究費獲得や研究発表が前年を上回った。
- ・海外での学会発表を行う教員が散見できた。

(2) 今後の課題

- ・さらに研究的雰囲気の醸成を図り、学会誌への投稿、海外の学会発表・学会誌への投稿等を促進する。
- ・中山医学大学看護学系教員との共同研究をはかる。

《学生指導》

(1) 特筆すべき事項

- ・国家試験合格率を高位に保つことができた（看護師97.2%、保健師89.2%）。
- ・就職率は、100%であった。
- ・学生の入学動機は多様であるため、中途挫折する学生がいる。

(2) 今後の課題

- ・e-learningや諸種の国家試験対策教材の積極的な導入を促進する。
- ・各種の就職説明会への参加や施設見学を促し、希望の施設への100%合格を目指して、指導していく。
- ・教科担当はもとより、クラス担任やゼミ担当は学生との接触を多くし、個々の学生の心情の把握に努める。
- ・学生は施設看護のみに目を向けがちであるが、看護活動の場が広いことを認識するように指導する。

《社会貢献》

(1) 特筆すべき事項

- ・各高校での出張・公開授業、埼玉県看護協会や実習関連施設への講師派遣を実施している。

(2) 今後の課題

- ・埼玉県看護協会とも連携し、地域住民を巻き込んだ事業の促進をはかる。

《組織マネジメント》

(1) 特筆すべき事項

- ・任期満了者3名、自己都合退職者6名と退職者数が多いため、後任者の確保に苦慮している。
- ・教育推進室への事務業務の委譲により、教員の事務作業負担が軽減されてきた。

(2) 今後の課題

- ・助教については特に領域に限定せず、広範囲に演習・実習指導を担当するように、教員配置を行っていく。
- ・教員数不足により教員が疲弊してきているため、パワーハラスメントの防止と、安定した環境整備に努める必要がある。

《その他》

(1) 特筆すべき事項

- ・看護学部開設10周年記念行事を実施することができた。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価	学科用評価	組織名称（評価単位名称）	看護学部 看護学科
---------------------------	-------	--------------	-----------

項目	自己評価 ※箇条書きにて記入
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム検討委員会を年4回開催し、カリキュラム改正準備のために、科目・演習・実習の学年配置のバランスと内容について検討した。 ・当面は時間割による調整を図った。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム検討委員会を継続し、現行カリキュラムの評価と改正・改善のための検討を行い改正の実現化を図る。 ・看護系大学等における実習施設の確保について、文部科学省からの通達を受けた改善策に継続して取り組む。
研究	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員各自の研究促進と研究費の積極的獲得(科学研究費、特別研究費)に努力した。 ・主たる実習施設(3病院)及び埼玉県看護協会等に「研究の促進と質の向上」を目的として積極的に教員を派遣し、学会発表の形でその成果を得た。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員各自の研究促進と学外研究費の積極的獲得の継続と、海外への研究成果の発表を促進する。 ・研究促進のための教育環境を整える。 ・主たる実習施設や看護協会への研究指導の派遣継続および共同研究を推進し、看護の質の向上を図る。
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護師国家試験合格率97.2%、保健師国家試験合格率89.2%、就職率100%であった。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護師国家試験不合格者へのフォローを行い次年度の合格を目指す。 ・看護師・保健師国家試験合格率の維持・向上を目指す。 ・学習及び生活への多層にわたる指導体制の継続強化とクラス担任制システムを検討し、多様な背景を持つ学生の中途退学を少なくするよう対策する。
社会貢献	<p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員各自で行っている社会事業への積極的参加の推進と推進するための環境を整備する。 ・地域に開かれた大学としての学部の役割を検討し実践する。 (岩槻住民を巻き込んだ認知症サポーター講座の継続開催と岩槻包括支援センターとの共催で「認知症カフェ」の企画運営への参画推進)
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織役割について、昨年度に引き続き事務的内容を整理し、スリム化を図った。 ・教育推進室への職員配置の継続により、教育資料の入力・印刷量が軽減でき学生に向き合う教員の時間確保に貢献できた <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助教の定員確保に鋭意努力し、人員配置を再考して演習、実習の充実を図る。 ・学部組織の編成及び役割分担を見直し、スリム化への検討を継続して実現化を図る。 ・実習に関する事務的作業について、実習支援室および教育推進室との連携による作業効率の更なる検討。 ・教員の研究活動を助成できる環境改善を図る。
その他	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護学部開設10周年記念式典・記念講演・記念祝賀会の実施と記念誌を刊行した。 ・目白大学看護学部看護学科と中山医学大学看護学系間の学生交流に関する協定から2回目の交流を企画した。 ・高校への出張事業を積極的に行い、学生確保に貢献できた。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目白大学看護学部看護学科と中山医学大学看護学系間の学生交流の継続実践。 ・同窓会支部への支援の継続と同窓会本部の協力を得て、卒業生の動向調査の実施。

別 科

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価	別科用評価シート	組織名称 (評価单位名称)	留学生別科
---------------------------	----------	------------------	-------

項目	自己評価 ※箇条書きにて記入
教育	<p>(1)特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交換留学生の増加とそれに伴うニーズの多様化に対応するために、授業カリキュラムを改善した(選択科目の設置等)。 ・授業力向上を目指し、非常勤講師を交えた研究会を年二回開催。(例年通り) <p>(2)今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も交換留学生が増加する可能性が高い。多様な学習者の多様なレベルに対応できるよう、検討する必要がある。 ・総合科目の扱いについても今後、長期的な検討が必要。
研究	<p>(1)特筆すべき事項</p> <p>【論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学習支援としてのアカデミックジャパニーズ:交換留学生を対象に」『目白大学口頭教育研究』22号 ・「アクセント型からみた単語アクセントの習得」『教育学研究ジャーナル』(18) ・「レポートと小論文クラスにおける上級日本語学習者の問題点」『アカデミックジャパニーズジャーナル』(7) <p>【発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「交換留学生のための学習支援:教員と学生の意識調査をもとに」日本語教育学会研究集会(香川) ・「外国人日本語学習者の発音能力を測定するシステムの開発」人文科学とコンピュータ研究集会 ・「日本語習熟度の異なる学習者に対する専門科目の授業デザイン」日本語教育学会研究集会(名古屋) <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「H28年度日本語教育能力検定試験合格するための本」(担当執筆)アルク <p>(2)今後の課題</p> <p>個々の講師の研究と同時に、留学生別科全体の課題に対して講師全体で共同で取り組む</p>
学生指導	<p>(1)特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前に比べ、学部進学者が減り、大学院進学希望者が増えた。 ・比較的早い時期から準備を始め、書類作成、志望動機作成、面談練習などの指導を実施。 ・目白大学(学部)に3名推薦。目白大学大学院に3名進学。 <p>(2)今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、大学進学希望、大学院進学希望者に対し、それぞれ教員一人ひとりが個別に対応しているが、今後、さらに大学院進学希望者が増加することが見込まれる中、指導体制について検討する必要がある。
社会貢献	<p>(1)特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落合第三小学校への訪問(地域の異文化交流) <p>(2)今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も地域の学校等との交流を継続
組織マネジメント	<p>(1)特筆すべき事項</p> <p>プレースメントテスト、クラス分けの実施に関わる作業が、これまでの経験を活かして再検討され、より効率性、妥当性の面で優れたシステムとなっている。非常勤講師2名の欠員の中、専任の教員がクラス運営、授業実施の面でより効率的な方法を模索し、なんとかその不足分を補い、質を落とさずに運営を進めている。</p> <p>(2)今後の課題</p> <p>非常勤講師2名の欠員を補充すべく、早急に任用を行う必要がある。専任教員は、新しい知見を取り入れ、より授業の質を向上させるために力を注ぐことが必要。</p>
その他	

* フィリピン、シンガポール、イギリス、ポルトガル、ドイツから各1名

附属施設等

項目	自己評価 ※箇条書きにて記入
研究	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3次中期目標・中期計画に掲げる外部資金等獲得や教員の研究力向上のための研究支援体制の組織的整備のため、平成27年4月に、地域連携・研究推進センターが設置された。 ・平成26年2月の公的研究費の管理・監査のガイドラインの改正及び、平成26年8月の研究活動における不正行為への対応等に関するガイドラインの決定に伴い、研究費関連規程の改正等を行うとともに、全学FD研修会などでその周知をはかった。さらに、特別研究費の見直しを行い、新たに若手研究者支援のための研究活動助成を設置した。 ・平成27年度中期計画の項目であった「教員の学会活動に積極的に参加できる条件整備」として、学内基本・特別研究費で出張する場合の日当を支給することとした。 <p>(2) 今後の課題</p> <p>科研費採択件数が減少したため、科研費等外部資金獲得に向けた対応が必要である。研究者情報の集約・整備化の検討を行い、さらに研究紀要編集委員会との連携体制を確立させ、リポジトリを構築する。研究者のコンプライアンス教育、倫理教育としてeラーニング教材を活用していく。</p>
地域貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年3月に新宿区と包括連携協定を締結し、これまでの、主として学科やゼミ単位で実施してきた取り組みを組織的なものに発展させ、双方の連携をより一層深めた地域貢献を図っていくこととした。 ・また特に、大学所在地近である落合・中井地区における連携事業も積極的に展開しており、遺跡フェスタ、染の小道等、地域でのイベントに積極的に関り、連携を深めた。 ・埼玉県戸田市との連携事業に関しては、これまでの地域社会学科の実績（寄附講座、共同研究、インターンシップ等）を元に、今後、教育・生涯学習の推進、まちづくり、産業・観光振興及び人材育成などの連携についての協定を締結することが予定されており、可能な事業から実施している。 <p>(2) 今後の課題</p> <p>包括連携協定の締結により、本学の多種多様な分野の知の資源を生かし、地域が抱えるさまざまな課題に貢献していきたい。ニーズが高い学生ボランティアについては、本学と地域が連携して行われる各種イベントに広く学生を募集し、対応していきたい。</p>
産学連携	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年2月に西武信用金庫と地域の活性化と産業の振興を図るために、包括連携協定を締結した。 ・米屋株式会社、株式会社ナポリアアイスクリームとそれぞれの学生コンテストの実施と優秀作品を商品化し、店舗において学生が販売を行った。 ・本学のメディカルスタッフ研修センターの認定看護師教育課程で学ぶ研修生が授業の一環として、さいたま商工会議所及び同会員企業の協力を得て、病院の患者様のQOLに繋がる看護・介護用具等の開発についてプレゼンテーションを行い、企業の商品化に繋げるプロジェクトを実施した。本事業を契機として同商工会議所との包括連携協定を今後双方で協議することとなった。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・包括連携協定を締結した西武信用金庫とは、新井薬師の商店街等、地域のニーズに対応し、また本学からはフリーペーパー等の配布により地域の活性化に貢献していく。 ・さいたま商工会議所とは、前述のプロジェクトを中心として、地域活性化事業の推進、地域の産業振興及び会員企業へのインターンシップ等包括連携協定の締結を目指すとともに、連携事業の推進を検討する。 ・さらに、マッチングイベント等に出展し、産学連携による様々な事業を展開していきたい。 ・高齢者福祉施設「神楽坂」の社会福祉法人三篠会とは、今後、包括連携協定を締結し、現在、イベント等を行っている施設に限らず、広く連携を深めていく。
その他	<p>1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学の話題性の高い研究成果等について、教育担当記者に多く配信される大学プレスセンター等を活用しマスコミへの配信を強化した。 ・地域連携・研究推進センター設置と同時期に、本学HPにおいて、地域連携・研究推進センターのページを設け、様々な研究活動や産学連携活動の実績などを効果的に広く社会へ発信した。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本センターHPの再構築により対外発信を推進していく。 ・第3次中期目標・中期計画に掲げる研究成果の有効な発信と社会への還元を一層推進するため、研究、産学連携等に係る本学の研究成果の諸実績と様々な知の資源の活用に関わる機関リポジトリを今後整備する。

自己評価 ※箇条書きにて記入

(1)特筆すべき事項

①講座(新宿キャンパス)

- 他の公開講座では稀な言語としてフィンランド語・デンマーク語・台湾語を展開。
- 新宿キャンパスでは託児室を完備。

②講座(岩槻キャンパス)

- 目白大学公開講座:さいたま市との共催で行う医療系公開講座で毎回定員を大幅に超える申し込みがある。(抽選)
平成27年度担当していただいたのは、看護学部の教員で『みんなで健やか育児～妊娠期から子育て応援機まで～』と題して実施。定員50名。

③物的資源活用

- 今までエクステンションセンターが大学施設を学外諸団体、および企業等に有料で貸し出していたが、6月より管理部で担当することとなった。

【所感】

①講座部門では、本学で売りにしていたマイナー言語でも長期担当していただいた講師が高齢化等の理由で、本国に帰国するため無くなる言語講座も出てきている。同等の質の高さを求めると、なかなか人材が見つからないのもマイナー言語ならではの事情であり、希望する受講生自体も減少傾向にあるため、講座を企画できても開講する人数が集まらないという事態もあった。今年度から補助金の関係で、パソコン教室が使えなくなりパソコンの講座がすべて無くなった。

②さいたま市との共催で行っている岩槻キャンパスでの医療系公開講座は、最初から社会貢献事業の一環として、地域の方を対象にした無料講座であるため、今後もさいたま市の予算が減少する等の理由により、本学の持ち出し部分が大きくなるとしても定員を超える応募があるので、社会貢献として続けていく方向で考えたい。

(2)今後の課題

講座部門では、毎年受講生が減少傾向にある。長年継続して受講していただいた方が、高齢のため減っていく一方で、従来多かった40代の主婦層が新規入会して来ない状況が拍車をかけた形となった。

受講生が減ってはいるが、数年前からエクステンションセンターの使用できる教室も減っているので、講座数を増やせるわけでもない。基本的には赤字になる講座は開講しないので、収益は出る形ではある。

自己評価 ※箇条書きにて記入

(1) 特筆すべき事項

1. 相談件数

過去10年ほど相談件数は漸増している。平成18年ころはセンターの年間相談件数は1500件ほどであったが現在300件ほどになっている。ただここ3年は相談件数3000件台で安定している。

2. 地域貢献活動

- 1) 公開セミナー(新宿キャンパス): 7月25日 5講座実施
- 2) 公開講座(新宿キャンパス): 2月26日 「風景構成法を語る」 講師伊集院清一 (外部講師)
- 3) 公開講座(埼玉病院キャンパス): 11月14日 「知ってほしい認知症の基本」 講師河野理恵

3. センター内教育活動

相談員への臨床教育として外部講師による事例検討会を4回実施した(7月31日, 11月6日, 12月11日, 2月19日)

4. 分室の埼玉病院事業

埼玉病院と提携した看護師等教育事業を本年度も継続実施した。

(2) 今後の課題

1. 公認心理師制度への対応

国家資格である公認心理師資格が平成30年度より実施制定される予定である。当該資格取得に十分対応できるような実習体制を整える。

2. 適性な相談件数の維持

これまで相談件数は漸増してきているが、センター相談員は一定であるため単に相談件数増加を目指すのではなく相談の適切な質・量を考慮した相談件数の目標を設定する。

3. 相談員の構成

現在教員である相談員および非常勤相談員が相談にあたっているが、非常勤相談員は雇用年数に制限がある。非常勤相談員の適正な交代がなされるような人事計画を策定する必要がある。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価	研究所用評価シート	組織名称 (評価単位名称)	教育研究所
---------------------------	-----------	------------------	-------

自己評価 ※箇条書きにて記入

(1) 特筆すべき事項

● 研究所全体における活動

1：所員会議の実施

- 所員会議を月1回ペースで開催した。岩槻キャンパスとはWeb会議でつないで実施した。
- 研究所事業・業務の審議決裁及び、グループ会議の設定、公開講座、紀要の発行に関する査読なども実施した。
- 会議資料や議事録などについては電子化しWeb上で共有を行った。

2：所報の刊行

- 所報『人と教育』を刊行した。
 - ・第10号の特集テーマは「学びへの支援」とした。各学科に執筆者を依頼し、多角的な視点で様々な論考が寄稿された。
 - ・FD部門で実施した公開講座の内容を収録するなど、研究所の諸活動についての実績についても採録した。

3：改組の方向性についての答申

- 教育研究所の諸課題を整理し、また各部門の業務について方向性を検討するため、ワーキンググループを設置し、学長に答申を行った。

● 研究部門における活動

1：「プロジェクト研究」の推進

- 以下の3つのテーマについて定期的にグループ会議を行い、課題の整理や調査の実施等、研究を推進した。
 - ・「大学教員の基本的な授業技術」：アクティブラーニングの定着状況や授業技術に関する調査分析を進めた。また大学における良い授業について定義等整理を進め、またFD活動へのコミットなどについて課題を整理した。
 - ・「ICTを活用した新しい授業方法の開発」：E-learningシステムの活用促進や、ドリル問題の充実等を実施した。また、E-learningに対する教員の意識調査を実施し、より活用してもらうための課題等について研究、整理を進めた。
 - ・「授業ビデオの開発」：学内の講義をビデオで撮影した授業ビデオの作成、利活用上の課題を検討・整理し、また、学外の諸機関が作成したビデオ等を学内で利用する場合の諸権利関係等の調査、整理を進めた。

2：機器貸出の実施

- iPad、タブレットPCや、プロジェクタ、カメラ、ケーブルなど多岐に渡る内容で、80件以上の貸出実績があった。
- iPadの貸出では、今年度より全台にiMovie（動画編集ソフト）を導入した結果、より多くの教員により利活用があった。

3：紀要の刊行

- 『目白大学高等教育研究』を刊行した。査読の仕組みを整備し質の高い論文が採録された。また、エントリーを完全電子化した。

4：E-learningのリメディアル教育での活用

- 理学療法学科も、入学前教育（リメディアル教育）にE-learningが活用され、継続も含め5学科で利用された。

● FD部門における活動

1：公開講座の実施

- 11月21日（土）にFD実施委員会と共催で公開講座を実施した。また、内容については所報『人と教育』第10号に掲載した。

2：文献資料の収集

- FD活動に関する学外の情報収集を行うため、特にFDに関連した文献資料の収集を行い、また学内への広報の仕方について検討を進めた。

● IR部門における活動

1：IR部門データベースの整備

- 学生情報を一元的に収集するリレーショナルデータベースを整備するとともに、定型的分析結果の出力を行う富士通分析テンプレートと、多角的に分析をし結果を出力できるTableau（タブロー）を導入した。

2：プロジェクト研究の推進

- IR部門としてプロジェクト研究を実施し、3月に卒業生アンケートを実施するなど、多角的分析に向けた調査研究を推進した。

(2) 今後の課題

- 事業が広範にわたっており、各事業を効率化することが課題である。また他の部署との連携によって推進すべき課題（特にe-learning関係）があるため、連携を図ることで更に効果的な事業展開を目指すことも今後重要である。
- 事業の周知が徹底しておらず、広報も課題である。
- より効率的な「プロジェクト研究」の推進方法と、成果のとりまとめをどう行うかについては、更なる検討が必要である。

自己評価 ※箇条書きにて記入

(1) 特筆すべき事項

大学院博士課程と連携して研究活動を行った結果、台湾（台北）、英国（ロンドン）にて、研究発表を行うことができた。

(2) 今後の課題

新宿区中井、中新井地区において、中小企業の経営、金融等に関する公開講座を実施することが当面の課題である。

項目	自己評価 ※箇条書きにて記入
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>① H26年度研修生全員が日本看護協会認定審査に合格した。課程修了後臨床に戻ると試験へのモチベーションが下がることが懸念されるため、グループ単位で過去問を分析し解答書を作成する方法で認定審査対策ゼミを実施したことや模擬試験(解説)が効果的であったと考える。新規に、苦手科目の早期克服をねらいとした個別学習プログラム(毎日15分プリントを解き、解説する)を実施したことで病態生理の理解が進み、科目試験不合格者が減少した。</p> <p>② H27年度研修プログラムとして、「看護実践・研究」「看護倫理」「看護業務の可視化プログラム」を実施した。いずれも定員45名を越える申し込みがあり、受講者アンケートでは、テーマ性と研修環境の快適さへの評価が大変高かった。</p> <p>③「がん性疼痛看護」修了生対象のフォローアップ研修(講習会)を実施した。結果、認定更新時のポイントとして次年度もプログラムを希望する者が多かった。</p> <p>④ 教科目「生活再構築のための支援技術」の授業内容「リスク管理」に関して、さいたま商工会議所会員と研修生によるマッチング会議を実施し、医療機器開発プロジェクトが立ち上がった。その後、SMAP事業(Saitama Mejiro Active Project)が発足し、H28年5月に目白大学&さいたま商工会議所包括連携協定締結の運びとなった。研修生側には患者に提供する看護の質向上とアイデア採択への期待と喜びがあり、商工会議所側には医療機器開発を通じて地域産業の活性化に繋がると期待されている。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>① H28年度4月から新カリキュラム遵守に伴い、「医療安全管理」「臨床薬理学」が必須となる。本学は既に「臨床薬理学」を選択しているが、1・2期生が未履修であることから、フォローアップ目的で授業公開を検討することにした。</p> <p>② 休講中「がん性疼痛看護」開講の可能性の検討(他教育機関、他分野の動向を踏まえて)</p> <p>③ 中期目標のひとつ、他分野開講の可能性について検討する。(認知症看護、訪問看護、摂食・嚥下障害看護など)</p>
研究	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>平成30年度診療報酬改定に向けて、本学脳卒中リハビリテーション看護認定看護師教育課程修了生を中心に「背面開放座位療法」を技術申請するために研究プロジェクトを立ち上げた。(本研究は日本看護技術学会と日本脳神経看護研究学会の共同研究の一環に位置づいている)主任研究員を大久保暢子先生(聖路加国際大学)とし、武田が研究指導、推進を担当する。スケジュールは、①本学倫理審査提出(H28. 6月)予定。承認後、吉祥寺南病院にて介入研究開始予定である。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>上記、介入研究の費用捻出を検討する必要がある。</p>
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①例年どおり個人面談を実施した。研修生背景では家庭を持つ既婚者が多く、研修中に子供の怪我や病気、誕生等で自宅と学校を行き来する研修生が多く、少なからず学業に影響していた。入学時オリエンテーションで、事態が深刻化しないうちに教員に相談するように話しておいたことは良かった。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>入学時面接や資料では捉え切れないことが多いため、入学して間もない時期に面談を持つ必要性を強く感じた。成人期ならではの悩みや相談にはいつでも対応できるよう心がけて行きたい。</p>
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①日本品質管理学会と2016「医療のための質マネジメント基礎講座」14回(7日間)の共催準備を進めた。学会が本学に期待することのひとつに本学の広報力で受講者獲得があげられ、本学にとっても厚労省承認の医療安全管理者養成研修として実施する教育的価値があると判断したため。今後は大学院、学内、認定教育課程修了生に広報していく。(目白大学関係者は会員価格で受講が可能)</p> <p>②脳卒中予防「第3回ストップ 脳卒中!」開催(H26. 12. 10)本年度から無料にした(周辺団地は年金生活者が多く無料を希望する声が多かった)早朝からストーブで体育館を暖めホッカイロを配った。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>②について、来年度から消防本部の協力が得られなくなった(救急車緊急出動に備えるため)。消防隊員、救急救命士の配役を検討する。</p>
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>① センター長交代により本年度目標は、「組織固めをすること」とした。月1度のMUSC会議には岩槻キャンパス松村局次長、佐藤修学支援部長が加わり、教員、事務職員との会議を円滑に進めるため調整役を果たしてくれた。</p> <p>②認定看護師教育課程は46名の非常勤講師によって構成されており、ほとんどが外部講師である。講師からのセンターに対する苦情は一切なかった。これは日頃、事務職員や教員が講師対応に細心の注意を払っているためと評価している。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>センターは限られた人員で大学院、認定教育課程を運用しなければならないため、互いにコミュニケーションを図り良い人間関係の中でセンター事業がこなせるよう、課題に対しては早めに対処する体質を作っていく。</p>
その他	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①専任教員の採用について</p> <p>柴本教員が入職し有期雇用となったため、これまで着手しにくかった看護研究計画に取り組むことができた。次年度はさらに計画実施にむけて活動する。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①研修生確保への努力 本学の裁量分で実施している教育課程の工夫(①医療機器開発コンテスト②市民公開セミナー③授業の公開④各種研修プログラムなど)について、効果的な広報を検討し実施する。また、各修了生には自施設から2人目の受講生を出してもらうよう働きかける。</p>